

KENWOOD

144MHz FM ハンディトランシーバー

TH-K28

430MHz FM ハンディトランシーバー

TH-K48

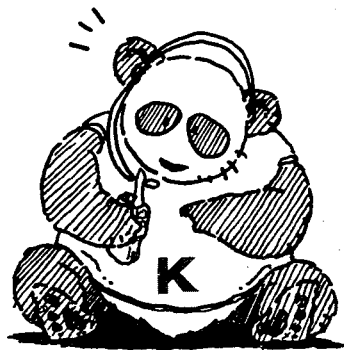
取扱説明書

お買いあげいただきましてありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

本機は、日本国内専用のモデルですので、外国ではご使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION.



本書の読みかた

●本書の構成

本書は次の5つの部分で構成されています。

■準備編 (2ページ～4ページ)

TH-K28/TH-K48をお使いになる前に必ず目を通してください。

■基本編 (6ページ～12ページ)

TH-K28/TH-K48の簡単な使い方を説明します。はじめて無線機をお使いになるかたは、まずここをマスターしましょう。

本書の冒頭には簡単な用語集を付けてあります。基本編でわからないことばが出てきたら、こちらをご覧ください。

■こんなときこう使う (13ページ～14ページ)

TH-K28/TH-K48には便利な機能がたくさんあります。使いはじめの頃は、どんなときにどの機能を使ったらよいか迷うことも多いかも。シチュエーションインデックスは楽しい4コマ漫画でそんな悩みを解決します。

■使いこなし編 (16ページ～52ページ)

いよいよ本格的な操作説明です。機能ごとに参照できるようにまとめられています。TH-K28/TH-K48の豊富な機能を使いこなすために、お役立てください。

■保守編 (54ページ～67ページ)

オプション機器の取り付けや、アフターサービスについて説明します。故障かな?と思ったらここをご覧ください。定格や開局申請書の書き方もこの編に入っています。

●表記上の約束

本文の操作説明は次のように、上から操作の順番に書かれています。

操作

MR BELL



[MR]を押す

F



[F]を1秒以上押し、[CALL LOW]を押す。

CALL LOW



[同調]を回す。



[MR BELL] [F] [同調]はキー、スイッチやつまみの操作を表しています。[F]は「Fキーを押してください」という意味です。

F



は「Fキーを1秒以上押してください」という意味です。

●何かのキーを押しながら電源を入れるときの操作
電源を入れてから表示が出るまでキーは押したままにしておきます。

目次

用語集

準備編

ご使用の前に	2
■梱包品を確認する	2
■使用上の注意	3
■アンテナを取り付ける	3
■電池をセットする	4

基本編

交信前の準備	6
■電源を入れる	7
■ボリュームを調節する	7
■スケルチを合わせる	8
■交信する周波数に合わせる	8
受信する	10
送信する	11

こんなときこう使う

シチュエーションインデックス	13
----------------------	----

使いこなし編

各部の名称と機能	16
必要に応じて設定する	20
■周波数ステップを変更する	20
■交信距離に応じて送信出力を切り替える	21
■キー操作をできないようにする	21
(キーロック)	
■キー操作時のビープ音をOFFする	22
■ディスプレイの照明をON/OFFする	22
■バッテリーセーバー機能をOFFにする	23
■オートパワーオフ機能をOFFにする	23
レピーターを使って交信する	24
■430MHz帯のレピーターを使う	24
(TH-K48)	
■シフト	25
■トーン	25
■リバース	25
メモリーに登録する	26
■シンプレックスチャンネルのデータを登録する	27
■スプリットチャンネルのデータを登録する	27
■周波数以外のデータも合わせて登録する	28

■希望するメモリーチャンネルを呼び出す	28
■メモリー内容をチャンネルごとに消去する	29
■メモリーチャンネルのデータをVFOに移す	29
■コールチャンネルのデータを変更する	30
■メモリーチャンネルに名前を付ける	30

自動的に周波数を変えて受信する (スキャン) 32

■バンド全域をスキャンする (VFOスキャン)	33
■指定された1MHz幅をスキャンする (MHzスキャン)	33
■メモリーチャンネルをスキャンする (メモリースキャン)	34
■スキャンさせたくないメモリーチャンネルを設定する (メモリーチャンネルロックアウト)	34
■VFO周波数とコールチャンネルをスキャンする (C/Vスキャン)	35
■メモリーチャンネルとコールチャンネルをスキャンする (C/Mスキャン)	35

特定の相手局と交信する 36

■CTCSS (トーンスケルチ)	37
------------------	----

■DTSS	39
-------	----

■ページング	42
--------	----

もっと便利に使う 47

■文字を使って交信する (メッセージ伝送)	47
■留守中の着信を知らせる (ベル)	51
■設定された機能をメッセージで確認する	52

保守編

故障とお考えになる前に	54
お買い上げ時の値に戻す (リセット)	56
アクセサリ	57
定格	64
開局申請書の書きかた	66
運用にあたってのご注意	67

用語集

・ UHF

300MHz～3000MHzの周波数帯。波長は10cm以上～1m未満。業務無線やTV放送などで広く利用されています。430MHzバンドはこの周波数帯に入り、波長が約70cmのため70cmバンドとも呼ばれています。

・ VFOモード

同調つまみを使って周波数を設定できる状態。VFOキーを押すとVFOモードになります。

・ VHF

30MHz～300MHzの周波数帯。波長は1m以上～10m未満。限られた地域での通信や放送に広く利用されています。144MHzバンドはこの周波数帯に入り、波長が約2mのため2mバンドと呼ばれています。

・ コールチャンネル

相手局を呼び出すのに使用する周波数。コールチャンネルは周波数帯ごとに決められています。

144MHz帯：145.00MHz

430MHz帯：433.00MHz

・ シフト

設定された受信周波数に対して送信周波数を十または一方向に増減する機能です。レピーター運用時などに使用します。

・ シンプレックスチャンネル

メモリーチャンネルに登録された送信周波数と受信周波数等しいチャンネル。

・ スキャン (走査)

周波数を自動的に変化させて信号を受信します。信号を受信するとスキャンは一時停止します。

・ スケルチ

信号を受信していないときに聞こえるザザザーという雑音をなくす機能。スケルチのレベルはSQLつまみで調整します。

「スケルチが開く」とは、信号を受信してスケルチを解除した(信号を受信できる)状態のことです。CTCSS、DTSSやページングでは、あらかじめ設定したコードが一致しなければ、信号を受信してもスケルチが開かず交信できません。

・ スプリットチャンネル

メモリーチャンネルに登録された送信周波数と受信周波数が異なるチャンネル。1つのチャンネルに2つの周波数を登録することになります。

・ ビジー (BUSY)

電波を受信している状態。

- ・ **メモリー**

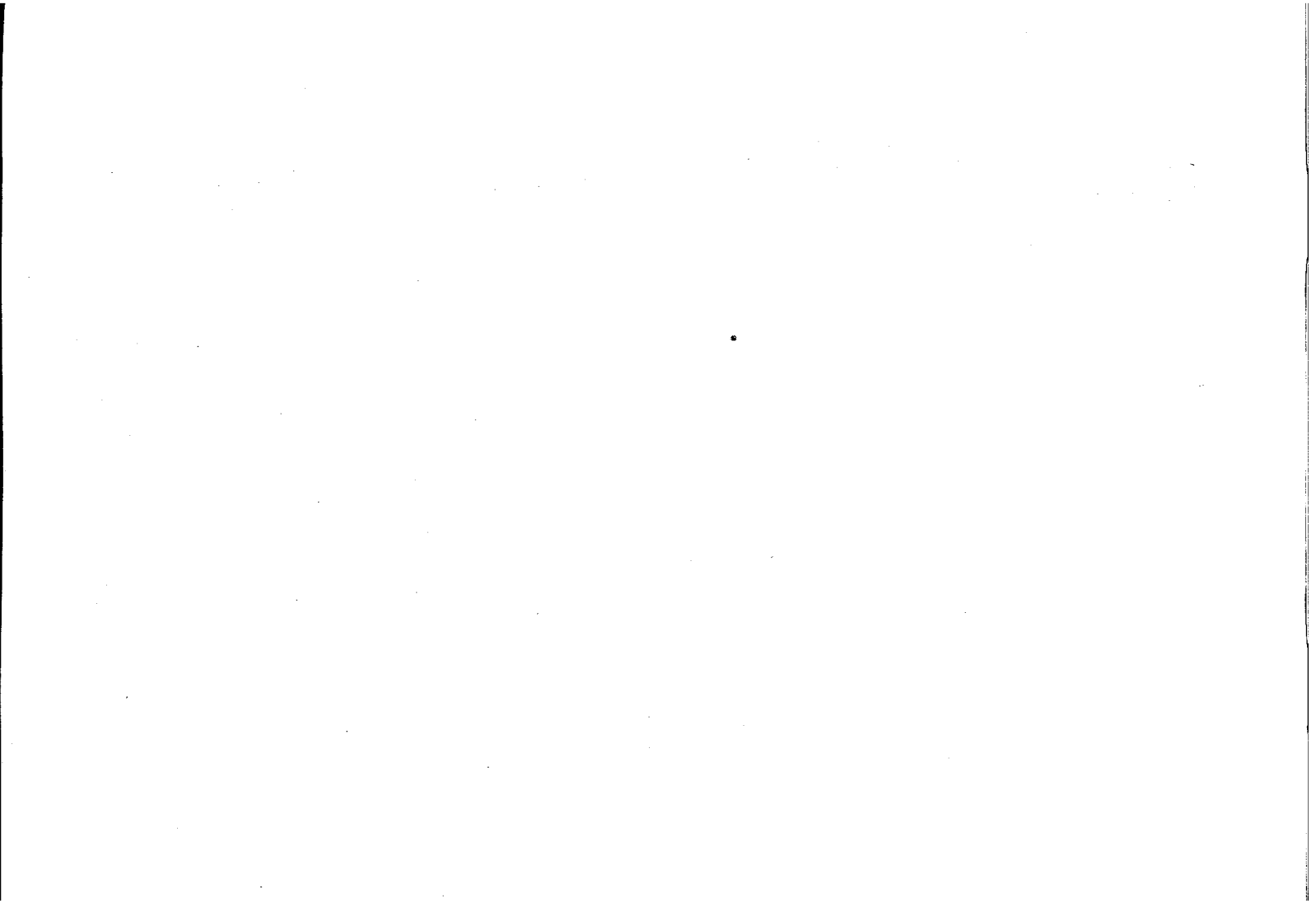
周波数やメッセージなどのデータを記憶する機能のこと。あらかじめ特定のチャンネルにデータを登録しておく、必要なときにチャンネル番号だけで呼び出すことができます。

- ・ **レピーター**

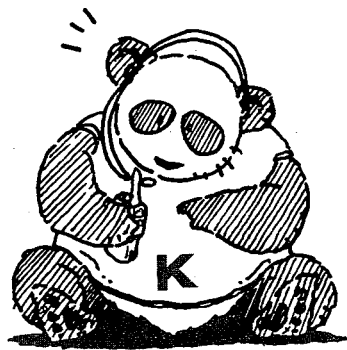
遠距離交信のための中継局。2者間の交信の間に入り、一方の局から受信した信号を増幅してもう一方の局に送ります。430MHz帯で設けられています。

- ・ **Sメーター**

受信した電波の強さを表示します。

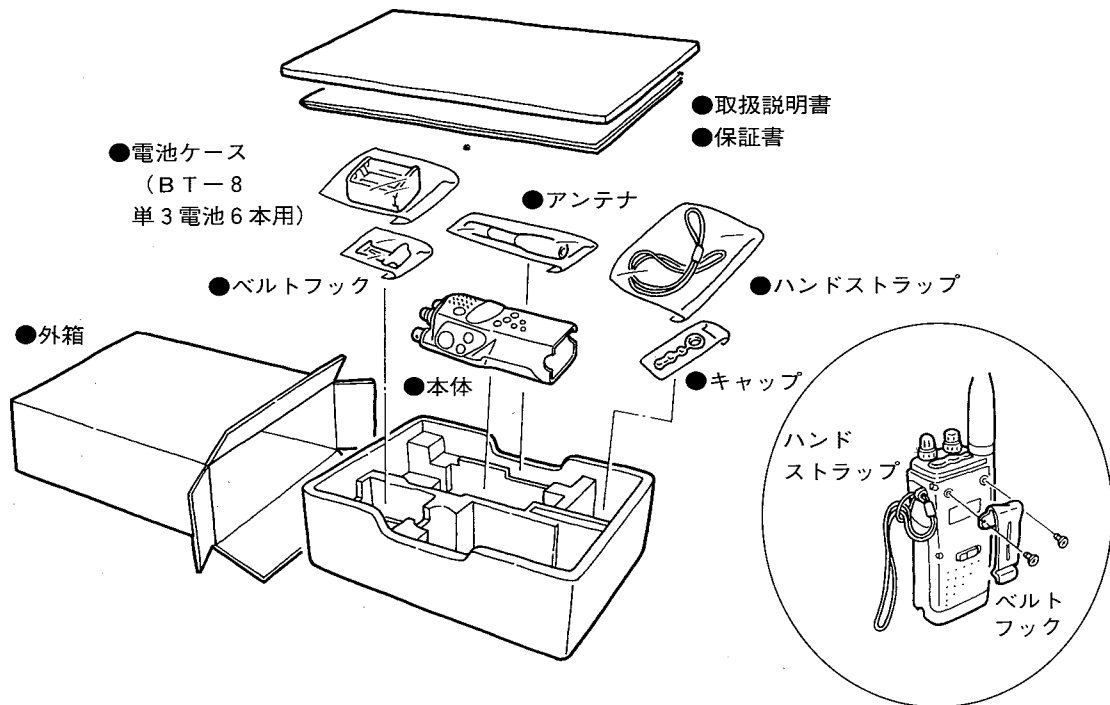


準備編



梱包品を確認する

すべての部品が揃っているか確認します。



電源について
本機を使用するときは電源が必要です。短時間のご使用には単3電池6本を別にお買い求めください。
長時間のご使用には別売のニッカド電池や安定化電源をおすすめします。

注意：ダンボール箱などは、移動の際や、アフターサービスのご依頼時などのために保管しておいてください。

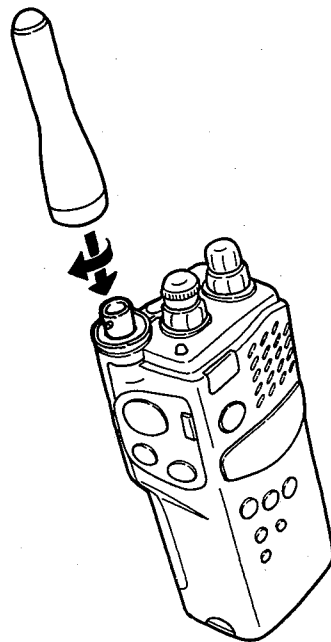
使用上の注意

ハイパワーで長時間送信すると、放熱のため機器の温度が上昇します。取り扱いには充分ご注意ください。

- ・本機の内部は調整済みです。手を触れないでください。
- ・固定運用時は、他の電子機器への電波障害と電圧異常による本機の破損を避けるため、外部アンテナをご使用ください。
- ・外部電源には必ず専用のDCコード（PG-2W別売）をお使いください。
- ・車載時、シガレットライターへ接続する場合は、必ず専用のシガレットライターコード（PG-3FまたはPG-3H別売）をお使いください。
- ・車のバッテリーを充電するときは、電圧異常による本機の破損を避けるため、シガレットライターコードを必ず抜いてから充電してください。
- ・別売のニッカド電池（PB-13/18）はDC IN端子から自動的に充電されます。過充電を防ぐため、ニッカド電池を接続したままで15時間以上充電することはおやめください。
- ・故障の原因となりますので、5.8V以下または16V以上の電圧を加えないでください。

アンテナを取り付ける

アンテナのコネクター部を持って本体のアンテナ端子に差込み、右に回します。



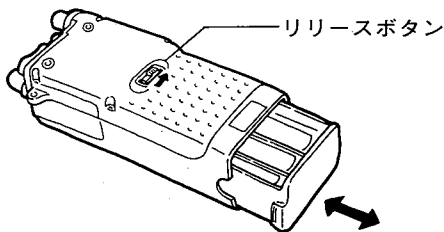
電池をセットする

●電池ケースの取り付け方法

①単3電池6本を電池ケースに＋、－の印どおりに入れます。

注意 マンガン電池またはアルカリ電池を使用してください。ニッカド電池を使用すると、ショートによる発熱で、電池ケースや本体が破損するおそれがあります。

②電池ケースを本体の底面から挿入します。



電池ケースを本体からはずすときは、本体背面のリリースボタンをスライドさせてから、引き抜いてください。

●電圧表示のみかた

送信時、ディスプレイはバッテリーメーターになり、電圧レベルを示します。電圧のレベルが低下したら、電池交換や充電を行ってください。

・単3電池の場合

新しい電池	電池交換が必要

・ニッカド電池（別売）

充電時		充電が必要	

●電池の使用可能時間

使用可能時間の目安を示します。

(送信6秒、受信6秒、無信号の受信48秒) (単位時間)

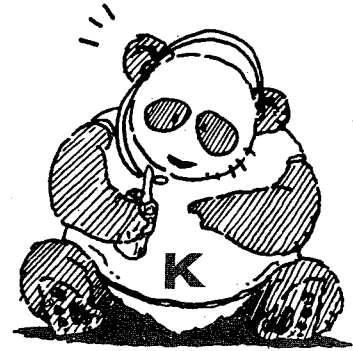
	電池	電池			
		H	M	L	E L
TH-K28	アルカリ電池	13	15	23	60
	マンガン電池	4	5	7	23
	PB-13/17	5.5/4.5	5.5	7.5	15
	PB-18	9	9	12	24
TH-K48	アルカリ電池	12	14	19	59
	マンガン電池	4	5	5.5	21
	PB-13/17	5/4	5	7	14
	PB-18	8	8	11	22



Ni-Cd

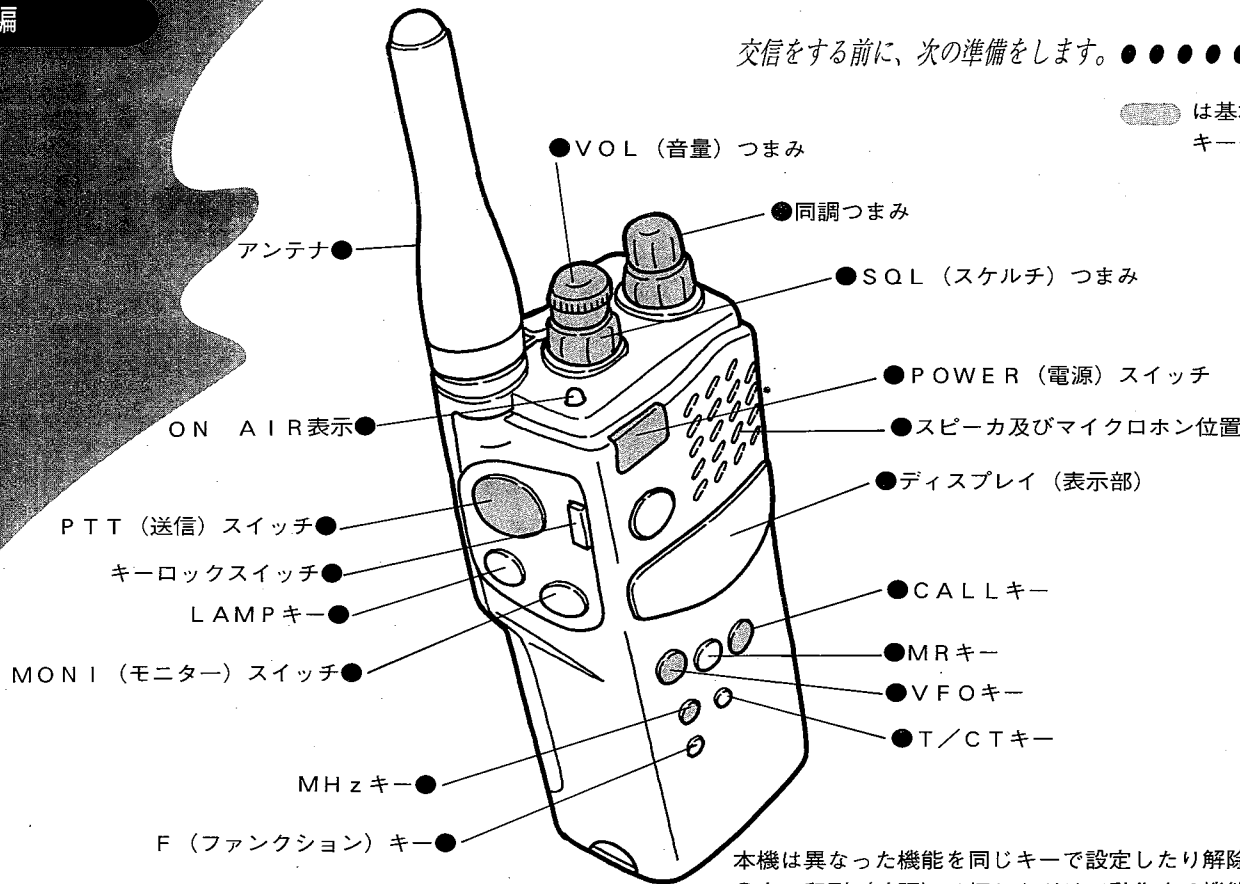
ご使用済みのニッカド電池は貴重な資源です。再利用率が高いため、廃棄しないでリサイクルにご協力をお願いします。

基本編



交信をする前に、次の準備をします。●●●●●●●●●●▶

● は基本編で操作するキーやつまみです。



本機は異なった機能を同じキーで設定したり解除できます。

- 白い印刷 (略語) は押ただけで動作する機能
 - 青い印刷 (略語) は F キーを押した後、そのキーを押したとき動作する機能
- と覚えておくと使いやすくなります。

電源を入れる

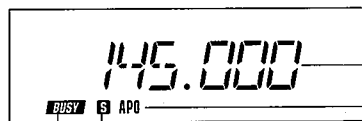
まず始めに電源をONにします。使い終わったら電源をOFFにするのを忘れないでください。



[POWER] を押す

電源が入り、ディスプレイに周波数が表示されます。

(TH-K28の場合)



スケルチが
開いています。

バッテリーセーバー
機能がONになって
います。

周波数表示

オートパワー
オフ機能が
ONになって
います。

(TH-K48の場合)



もう一度押すと、電源がOFFになりディスプレイの表示が消えます。

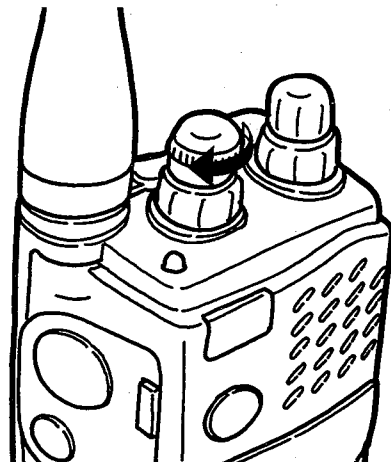
ボリュームを調節する

ザーツという音が聞こえるまでVOLつまみを回します。



[VOL] を時計方向に回す

ザーツという音が、交信中の音声聞こえます。



スケルチを合わせる

信号のないチャンネルを受信すると、ザーという雑音聞こえます。この雑音をなくす機能をスケルチと呼びます。



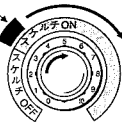
【SQL】を時計方向に回し、ザーという音が聞こえなくなるところに合わせる

スケルチのレベルが低すぎる（スケルチが浅すぎる）と雑音でスケルチが開いてしまい、逆にレベルが高すぎる（スケルチが深すぎる）と、雑音だけでなく弱い電波も聞こえなくなります。スケルチのレベルはSQLつまみで調整します。

SQLつまみ使用例：

おすすめする
使用範囲

雑音が消える
位置



時計方向に回すほど弱い
信号が受信できなくなる

注意 雑音が消える位置は、雑音電波や温度など周囲の影響により変化します。

交信する周波数に合わせる

TH-K28/TH-K48は次の周波数帯が使用できます。

TH-K28：144～146MHz VHF帯

TH-K48：430～440MHz UHF帯

周波数を設定します。次の3とおりの方法があります。

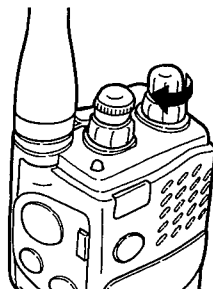
- ・同調つまみを使う
- ・コールチャンネルを呼び出す
- ・メモリーチャンネルを呼び出す（「メモリーに登録する」
* P26参照）

●同調つまみを使って周波数を合わせる



【同調】を回す

同調つまみを時計方向に回すと、周波数が20kHz（初期値）ずつ増加します。反時計方向に回すと、20kHzずつ減少します。希望する周波数に合わせてください。



周波数を1MHz以上増減するときは、MHzキーを押してから同調つまみを回すと、すばやく希望する周波数に合わせることができます。

操作

MHz DT/PAG



[MHz DT/PAG] を押す



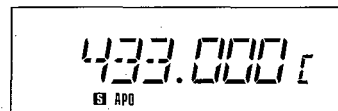
[同調] を回してMHz桁を合わせる
[MHz DT/PAG] を押すかその
まま10秒経つと周波数表示に戻ります
ので [同調] で希望の周波数に合わせま
す。

●コールチャンネルに合わせる

CALL LOW



[CALL LOW] を押す
ディスプレイにコールチャンネル周波数
とCが表示されます。



(TH-K48の場合)

[VFO M▶V] を押すとVFOモー
ドに戻り、周波数を変更できます。

コールチャンネルに設定されている周波数

TH-K28 : 145.000MHz

TH-K48 : 433.000MHz

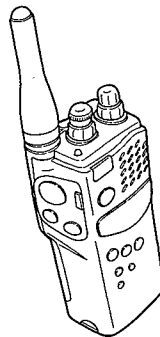
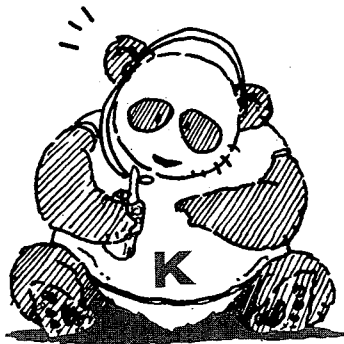
コールチャンネルの周波数は変更することができます（「コールチャンネルの
データを変更する」P30参照）。

受信する

同調つまみやCALL LOWキーを使って希望の周波数に合わせます。

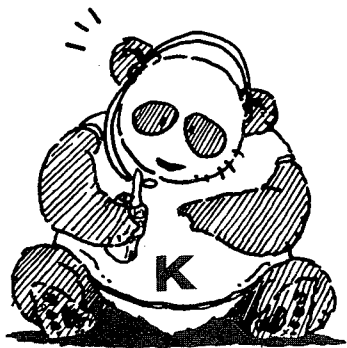
信号を受信すると、相手の声が聞こえます。

ディスプレイにはBUSYとSメータが表示されます。



現在地は
横浜市...

送信する



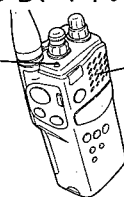
送信する前に、使用する周波数を他局が使用していないかを確認します。周波数が使用されていないことが確認できたら、送信を行います。



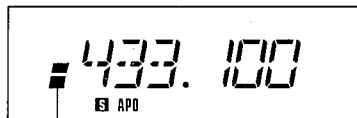
[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって話す

ON AIR表示

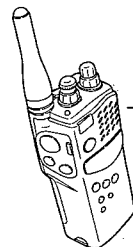
マイクロホンの位置



ON AIR表示が点灯し、メーターはバッテリーメーターに変わります。



バッテリーメーター



JA1△△△
こちらは
JA1〇〇〇
どうぞ

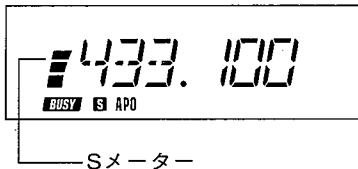
マイクロホンは口元から5cm程度離してください。近づけすぎたり、離しすぎたりすると、相手が聞き取りにくくなります。

送信する

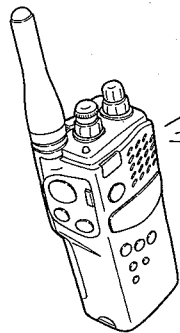
PTT

[PTT]を離す

受信状態に戻ります。ON AIR表示が消えメーターはSメーターに変わります。



相手の声が聞こえます



JA1〇〇〇
こちらは
JA1△△△です。
どうぞ!

タイムアウトタイマー

本機は連続して10分以上送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。さらに送信を続けるときは、いったんPTTスイッチを離して、もう一度押し直してください。この機能は解除できません。

- 注意
- ・送信する前に、付属のアンテナまたは低SWR (1.5以下) のアンテナが接続されていることを確かめてください。
 - ・送信する前に必ずその周波数を受信し、他局が交信していないことを確かめてください。
 - ・ハイパワーで長時間送信すると、機器の温度が上昇し、故障の原因となることもありますので、ご注意ください。

こんなときこう使う

シチュエーションインデックス

●よく使う周波数を簡単に呼び出したい

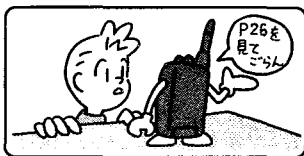
いつも使う周波数が
同じ
Zさんとは〇〇MHz
Gさんとは△△MHz



設定し直すのは大変



簡単に呼び出す方法



メモリー
▶ P26

●遠くの相手と交信したい

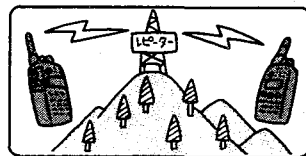
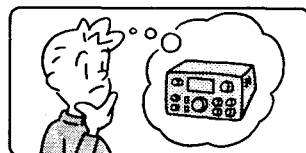
Cさんと交信したい
んだけど...



Cさんの家は遠くて
電波が届かない



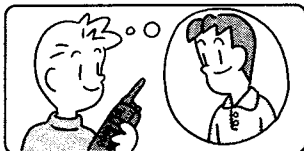
もっと大きな無線機を買わないとだめかな



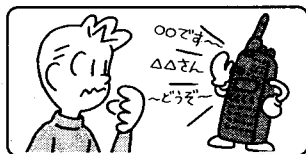
レピーター
▶ P24

●あの人だけと交信したい

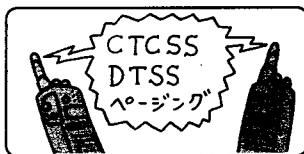
Kさんだけと交信したいんだけど..



他の人の声ばかり入ってくる



キャンプに行ったときにも使いたいたんだけど



CTCSS、DTSS、
ページング
▶ P 36

●取扱説明書通りに動かない

説明書通りにやっ
てるのにうまく動か
ない



この前、適当にい
じっちゃったから

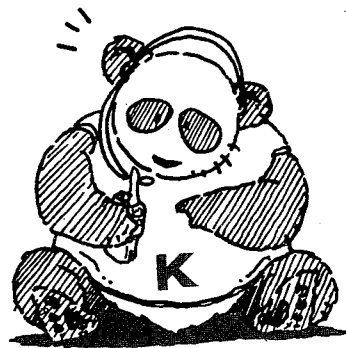


確か、買ったばっ
かりのときはうま
くいったよね



リセット
▶ P 56

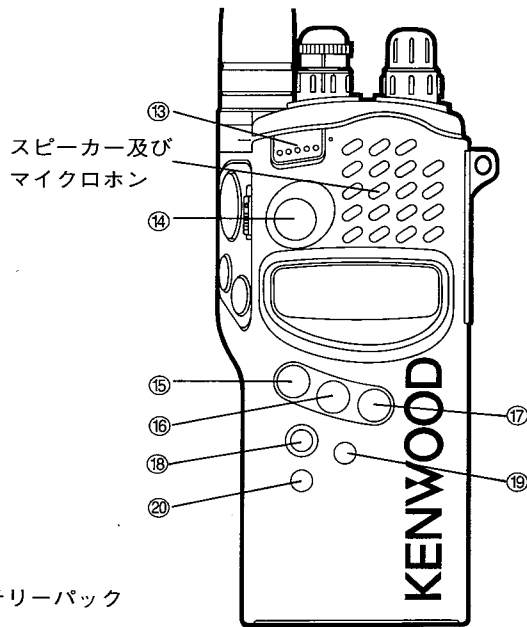
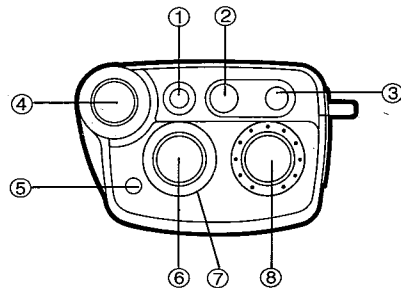
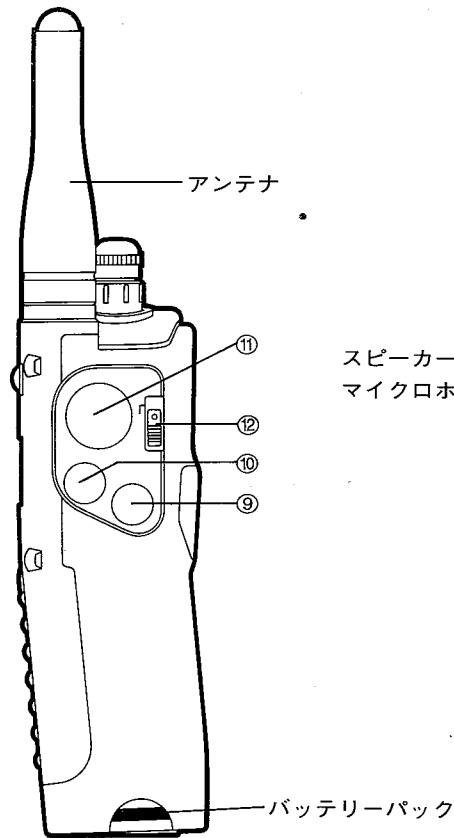
使いこなし編



各部の名称と機能

本機は異なった機能を同じキーで設定したり解除できます。

- 白い印刷（略語）は押しただけで動作する機能
 - 青い印刷（略語）はFキーを押した後、そのキーを押したとき動作する機能
- と覚えておくと使いやすくなります。



●各部の名称と機能

キー名称	機 能
① DC IN端子	直流電源に接続するための端子。接続には別売のDCコードをご使用ください
② MIC端子	外部マイクロホンを接続するための端子
③ SP端子	外部スピーカーまたはイヤホンを接続するための端子（インピーダンス8Ω）
④ アンテナコネクター	付属のアンテナをここに接続してください
⑤ ON AIR表示	送信中に点灯する
⑥ VOLつまみ	音量を調節する
⑦ SQLつまみ	スケルチを調節する
⑧ 同調つまみ	周波数、メモリーチャンネル、スキャンの方向などを設定する
⑨ MONIスイッチ	スケルチを一時的に解除する。受信信号をモニターするのに使う。CTCSS、DTSS、ページングONのときも使用できる
⑩ LAMPスイッチ	ディスプレイのランプをON/OFFする
⑪ PTTスイッチ	送信に使う。このスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話してください
⑫ LOCKスイッチ	キーの入力を受け付けないようにする
⑬ POWERスイッチ	電源をON/OFFする。電源をONするには、0.3秒以上続けて押してください

キー名称	機 能
⑭ MESSAGEキー	受信メッセージを確認する
⑮ VFO M▶Vキー	VFOモードにする（「用語集」参照）
⑯ MR BELLキー	登録ずみのメモリーチャンネルを呼び出す
⑰ CALL LOWキー	コールチャンネルを呼び出す
⑱ MHz DT/PAGキー	VFOモードでの周波数の増減が、1MHz単位になる
⑲ T/CT REVキー	トーンとCTCSSをON/OFFする
⑳ Fキー	他のキーと組み合わせて使うと、いろいろなファンクション機能呼び出すことができる

●ファンクション機能

複数のキーを組み合わせると、いろいろなファンクション機能呼び出すことができます。

- ・各キーを1秒以上続けて押す

キー操作	機能
VFO M▶V ○	VFOスキャンを開始する
MR BELL ○	メモリスキャンを開始する
CALL LOW ○	コールスキャンを開始する
LAMP ○	ディスプレイのランプを常に点灯させる

●10秒ルール

Fキーを押し、続けてキーを押すときは、10秒以内に次のキーを押します。10秒以上経過するとFキーを押す前の状態に自動的に戻ります。このときはもう一度Fキーを押してから次の操作をしてください。

- ・Fキーを押し、続けて各キーを押す
F表示が10秒間点灯します。

キー操作	機能
F ○ ▶ PTT ○	シフトを切り替える（シフトなし、+シフト、-シフト）
F ○ ▶ LAMP ○	メモリーチャンネルが名前表示の時周波数表示に切り替える
F ○ ▶ LOCK ○	メモリーチャンネルロックアウトをON/OFFする
F ○ ▶ MESSAGES ○	メッセージ受信をON/OFFする
F ○ ▶ VFO M▶V ○	メモリーデータをVFOに移動する（メモリーシフト）
F ○ ▶ MR BELL ○	ベルをON/OFFする
F ○ ▶ CALL LOW ○	送信出力を切り替える
F ○ ▶ MHz DT/PAG ○	DTSSとページングのON/OFFを切り替える
F ○ ▶ TACT REV ○	リバースをON/OFFする

- ・ F キーを 1 秒以上押し、各キーを押す
F 表示が 1 0 秒点滅します。

キー操作	機能
F (長押し) + LAMP	メモリーチャンネルの名前を書き込む
F (長押し) + LOUT MUTE	送信を禁止する
F (長押し) + MESSAGE	送信メッセージを書き込む
F (長押し) + VFO M \rightarrow V	周波数ステップを変更する
F (長押し) + MR BELL	メモリーチャンネルにデータを書き込む
F (長押し) + CALL LOW	コールチャンネルにデータを書き込む
F (長押し) + MHz DT/PAG	DTSS または ページング が ON のとき、コードを設定する
F (長押し) + T/C T REV	CTCSS 周波数を設定する

- ・ 各キーを押しながら、POWER スイッチを ON にする

キー操作	機能
LAMP +	メモリーチャンネルの名前表示を ON / OFF する
LOUT MUTE +	ビープ音を ON / OFF する
MESSAGE +	受信メッセージバッファを消去する
F +	メモリーをリセットする
VFO M \rightarrow V +	バッテリーセーバーを ON / OFF する
MR BELL +	特定のメモリーチャンネルデータを消去する
CALL LOW +	オートパワーオフを ON / OFF する
MHz DT/PAG +	DTSS 信号のディレイ時間を切り替える
T/C T REV +	スキャン再開条件を切り替える (T \leftrightarrow C \rightarrow O)

TH-K28/TH-K48を好みに応じた状態に設定できます。

周波数ステップを変更する

同調のまま周波数を合わせる（VFOモード）と
きの、ステップ幅（増減単位）を変更します。

操作

VFO M▶V



[VFO M▶V]を押す



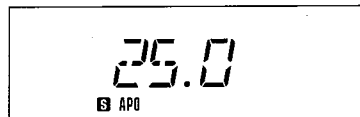
VFO M▶V



[F]を1秒以上押し、
[VFO M▶V]を押す
ステップ選択モードになり、現在のス
テップ値が表示されます。



[同調]を回して変更したいステップを選
択する



選
択できるステップは次のとおりです。
5、10、15、20、12.5、25

VFO M▶V



[VFO M▶V]を押す

補足 周波数ステップの変更による周波数補正
周波数ステップを変更すると、表示される周波数の10kHz
以下の桁は次のとおりに補正されます。

例：ステップを20から12.5に変更する
439.920MHz→439.925MHz

- ・ステップを5、10、15、20から12.5、25へ変更する

元の周波数	表示される周波数
0、5、10、15	0
20、25、30、35	25
40、45、50、55	50
60、65、70、75	75
80、85、90、95	75

- ・ステップを12.5、25から5、10、15、20へ変更する

元の周波数	表示される周波数
0	0
12.5	10
25	20
37.5	30
50	50
62.5	60
75	70
87.5	80

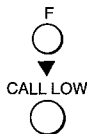
必要に応じて設定する

交信距離に応じて送信出力を切り替える

交信相手との距離に応じて送信出力を切り替えます。送信出力はH（最大）→M→L→EL（最小）の4段階を選択できます。

遠く離れた相手と交信するときにはH（表示はありません）を選択し、送信出力を上げます。逆に、近距離の交信にはELやLに選択してください。電池の消耗が少なくなります。

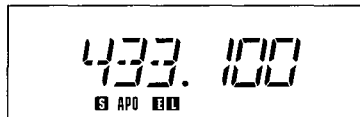
操作



[F]を押し、続けて[CALL LOW]を押す

この操作をするごとに出力の大きさが切り替わります。

H→M→L→EL→H→...



送信出力

送信出力 電圧	H	M	L	EL
PB-13/18	約2.5 W(*)	約2.5 W(*)	約0.5 W	約20 mW
PB-17	約5 W	約2.5 W	約0.5 W	約20 mW
外部電源 (13.8 V)	約5 W	約2.5 W	約0.5 W	約20 mW

(*) : TH-K48は2 W

キー操作をできないようにする (キーロック)

携帯中にキーが何かに触れてもキーの入力を受け付けられないようにできます。

ただし、次のキーは動作します。

[LAMP]、[MONI]、[PTT]

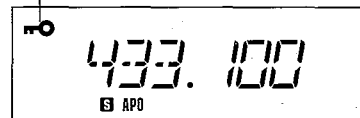
操作



[LOCK]を押し上げる

キーロックが設定されキーロックマークが点灯します。

キーロックがONのとき点灯

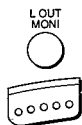


LOCKスイッチを押し下げると、キーロックが解除されます。

キー操作時のビープ音を OFFする

キーを押したときのピッという音を鳴らないように
できます。(DTMFの音はOFFにできません)

解除



いったん電源を切り、[MONI]を押し
ながら電源を入れる

周波数表示になる前に設定された状態が
メッセージで表示されます。(52ページ
参照)

ビープ音が鳴らないようになります。

もう一度同じ操作をすると、ビープ音が
鳴るようになります。

操作

ディスプレイの照明を ON/OFFする



[LAMP]を押す
照明が点灯します。キー操作をしないと
5秒後に消えます。キー操作をすると、
操作が終了してから5秒後に消えます。



[LAMP]を1秒以上押す
照明が点灯したままになります。もう一
度[LAMP]を押すと、照明が消えま
す。

バッテリーセーバー機能をOFFにする

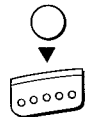
受信時、電池の消耗を防ぐため、バッテリーセーバーと呼ばれる機能があります。バッテリーセーバー機能がONのとき次のように動作します。

受信中にスケルチが閉じ、キーを操作しない状態が10秒以上続くと、電源のON/OFFが繰り返されONの時のみ受信します。スケルチが開くかまたは、キーが押されると、電源がONのままになります。

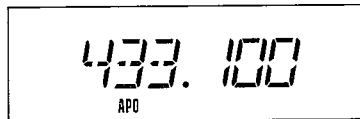
お買い上げ時、バッテリーセーバー機能はONに設定されています。

解除

VFO M▶V



いったん電源を切り、[VFO M▶V]を押しながら電源を入れる
・
バッテリーセーバー機能が解除されS表示が消えます。

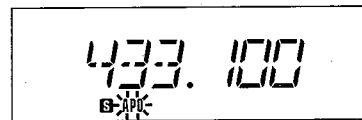


もう一度同じ操作をすると、バッテリーセーバー機能が設定されます。

オートパワーオフ機能をOFFにする

オートパワーオフとは、1時間以上使用しないときに自動的に電源がOFFになる機能です。オートパワーオフ機能がONのとき次のように動作します。

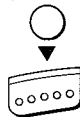
受信中にスケルチが閉じ、キーを操作しない状態が1時間続くと、ディスプレイのAPO表示が点滅してアラーム音が鳴り、最後には電源がOFFになります。



お買い上げ時、オートパワーオフ機能はONに設定されています。

解除

CALL LOW



いったん電源を切り、[CALL LOW]を押しながら電源を入れる

オートパワーオフ機能がOFFになり、APO表示が消えます。
もう一度同じ操作をすると、オートパワーオフ機能が設定されます。

注意 オートパワーオフ機能をONにした後でベル機能をONにすると、ベル機能を解除するまでオートパワーオフ機能は働きません (APO表示は点灯します)。

遠く離れた局どうしが交信できるように、UHF帯にはレピーター（自動中継局）が設置されています。レピーターを介すると、送信出力が小さくても遠くの相手と交信できます。

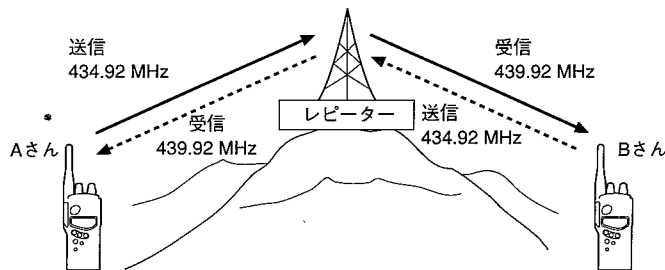
レピーターを使用するには受信周波数と送信周波数を決められた周波数だけです（シフトする）必要があります。また、送信信号にトーンを付加しなければなりません。

430MHz帯のレピーターを使って交信するには、送受信周波数を5MHzシフトし、信号に88.5Hzのトーンを付加しなければなりません。

TH-K48には、受信周波数をレピーターの周波数（439.000MHz以上）に設定すると、送信周波数を自動的に-5MHzシフトし、トーンも自動的に付加するオートレピーターオフセット機能があります。

430MHz帯のレピーターを使う (TH-K48)

オートレピーターオフセット機能を使って交信します。



操作

受信周波数をレピーターの周波数に合わせる
レピーターを介して受信します。



[PTT]を押しながら話す
レピーターを介して送信します。

シフト

受信周波数に対して送信周波数を+または-方向にずらします。

シフト幅 4 3 0 MHz 帯: ±5 MHz
1 4 4 MHz 帯: ±6 0 0 kHz

操作



[F]を押し、続けて[PTT]を押す
シフトなし→+シフト→-シフトが順に
切り替わります。

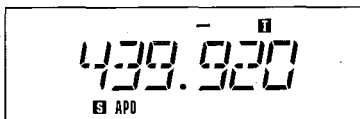
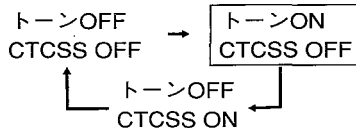


トーン

操作



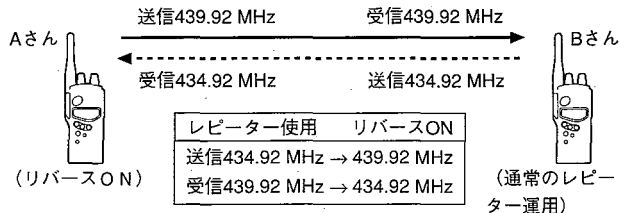
[T/CT REV]を押す
トーンがONになり、Tが表示されます。



注意 レピーターによる交信以外のときは、トーンをOFF
にしてください。

リバース

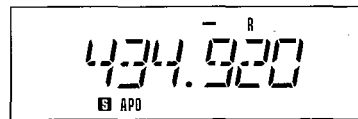
レピーターを使わずに相手と交信できるかどうかを
チェックするために、シフト中やスプリットチャン
ネル使用時に送受信周波数を反転させます。



操作



相手が話し中に[F]を押し、続けて
[T/CT REV]を押す
Rが表示され、送受信の周波数が入れ替
わります。



もう一度同じ操作をすると、リバースが
解除されます。

レピーターを使って交信する

ご注意

メモリーチャンネルとコールチャンネルを除くデータの保持は、電池ケースや外部電源から充電される二次リチウム電池で行なっています。電池ケースをはずし状態では、メモリーは約20日間で見捨てられ初期設定値に戻ります。電池ケースまたは外部電源を接続すると、約10時間で充電されます。

TH-K28/TH-K48には、送受信周波数やDTSSコードなどを記憶しておくためのメモリーが40チャンネル分（オプションの拡張メモリーユニット（ME-1）装着時、240チャンネル）あります。よく使う周波数などをメモリーに登録しておく、チャンネル番号で呼び出すことができるようになります。

メモリーには次のデータを登録できます。

受信周波数
送信周波数（スプリットチャンネル時のみ）

トーン（CTCSS）周波数
トーン、CTCSS ON/OFF
周波数ステップ
DTSS ON/OFF
DTSSコード
SHIFT（+、-）
REV ON/OFF

●メモリー登録手順のながれ

シンプルクスチャンネル スプリットチャンネル
(送受信周波数が同じ) (送受信周波数が異なる)

- | | |
|---|--|
| <p>1 VFOモードで
受信周波数を合わせる</p> <p>▼</p> <p>2 周波数以外のデータ
を設定する</p> <p>▼</p> <p>3 [F] 1秒</p> <p>▼</p> <p>4 チャンネル番号を選択する</p> <p>▼</p> <p>5 [MR BELL]</p> | <p>1 VFOモードで
受信周波数を合わせる</p> <p>▼</p> <p>2 周波数以外のデータ
を設定する</p> <p>▼</p> <p>3 [F] 1秒</p> <p>▼</p> <p>4 チャンネル番号を選択する</p> <p>▼</p> <p>5 [MR BELL]</p> <p>▼</p> <p>6 送信周波数に合わせる
場合には2を省略します。</p> <p>▼</p> <p>7 [F] 1秒</p> <p>▼</p> <p>8 チャンネル番号を選択する
(4と同じチャンネル)</p> <p>▼</p> <p>9 [PTT] を押しながら
[MR BELL]</p> |
|---|--|

- ・周波数だけしか登録しない場合には2を省略します。
- ・スプリットチャンネルで6以降を省略すると、シンプルクスチャンネルとして扱われます。

・スプリットチャンネルは周波数の他に十一が表示されます。

メモリーに登録する

シンプレックスチャンネルのデータを登録する

受信周波数をメモリーに登録します。

操作

VFO M▶V



[V F O M▶V]を押す

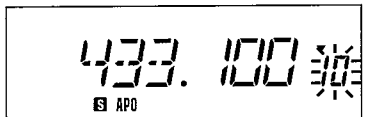


[同調]で受信周波数を合わせる
周波数が表示されます。



[F]を1秒以上押す

▼とチャンネル番号が交互に点滅します。
登録済みのメモリーチャンネル番号のときは、
チャンネル番号のみが点滅します。



[同調]でメモリーチャンネル番号(00~
39)を選択する

MR BELL



[MR BELL]を押す
メモリーに登録されます。

オプションの拡張メモリーユニット(ME-1)装着時のメモリー
チャンネル番号は000~239から選択します。

スプリットチャンネルのデータを登録する

受信周波数を先に登録してから送信周波数を登録し
ます。受信周波数しか登録されていないチャンネル
はシンプレックスチャンネルとして扱われます。

注意 受信周波数と送信周波数が登録されているスプリットチャ
ンネルに新たに受信周波数を登録すると、登録されていた
送信周波数は無効となりシンプレックスチャンネルとして
扱われます。

操作

受信周波数を登録する

シンプレックスチャンネルのデータの登
録手順で受信周波数を登録します



[同調]で送信周波数を合わせる



[F]を1秒以上押す



メモリーチャンネル番号(受信周波数の
登録時と同じ番号)を選択する



[P T T]を押しながら[MR BELL]
を押す

MR BELL



周波数以外のデータも合せて登録する

周波数だけでなく、トーンなどのデータも一緒に登録できます。

操作

(例：トーンONを登録する)

VFO M▶V



[VFO M▶V]を押す



[同調]で周波数を合わせる

T/CT REV



[T/CT REV]を押す

トーンがONになり、Tが表示されます。

F



[F]を1秒以上押す



メモリーチャンネル番号(00~39)を選択する

MR BELL



[MR BELL]を押す

周波数とトーンのONがメモリーに登録されます。登録したチャンネルを呼び出すと、トーンがONに設定されています。

この例のように、書き込み操作をする前にデータを設定すると、そのデータと一緒にメモリーされます。各データの詳しい設定方法については、該当するページをご覧ください。

希望するメモリーチャンネルを呼び出す

メモリーに登録された周波数やデータを呼び出します。

操作

MR BELL

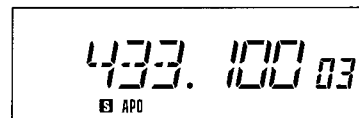


[MR BELL]を押す



[同調]を回す

メモリーに登録された周波数が順番に表示されます。



メモリー内容をチャンネルごと消去する

メモリーチャンネル番号を指定して、メモリーのデータを消去できます。

操作

MR BELL



[MR BELL]を押す



[同調]で消去するメモリーチャンネル番号を選択する

MR BELL



いったん電源を切り、[MR]を押しながら電源を入れる
メモリーチャンネルの内容が消去され、その内容はVFOに移ります。



メモリーチャンネルのデータをVFOに移す

メモリーチャンネルのデータをVFOモードに移して使用することができます。ただしスプリットチャンネルは受信周波数のみがVFOに移ります。

操作

MR BELL



[MR BELL]を押す



[同調]で希望するメモリーチャンネル番号を選択する

F



[F]を押し、続けて[VFO M▶V]を押す

VFO M▶V



周波数やその他のデータが変更できます。変更したデータをふたたびメモリーチャンネルに登録したいときは、続けて以下の操作を行います。

F



[F]を1秒以上押す



メモリーチャンネル番号(00~39)を選択する

MR BELL



[MR BELL]を押す

メモリーに登録する

コールチャンネルのデータを変更する

メモリーチャンネルと同様に、コールチャンネルのデータを変更することができます。

● シンプレックスチャンネルの登録

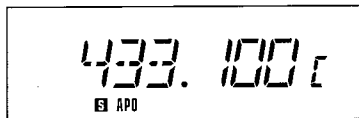
操作



受信周波数や各種データを設定する

[F]を1秒以上押し、[CALL LOW]を押す

コールチャンネルにデータが登録されます。



● スプリットチャンネルの登録

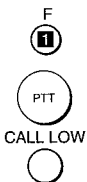
操作

上記手順で、受信周波数をコールチャンネルに登録する

送信周波数を設定する

[F]を1秒以上押し

[F]を押して10秒以内に、[PTT]を押しながら[CALL LOW]を押す



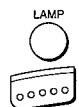
メモリーチャンネルに名前を付ける

メモリーチャンネルに名前を付けることができます。メモリーチャンネルを呼び出したときに、周波数を表示する代わりに名前を表示することができます。

メモリーチャンネル20チャンネル分（オプションのME-1装着時は120チャンネル）に名前を付けることができます。

● メモリーチャンネルに名前を書き込む

操作



いったん電源を切り、[LAMP]を押しながら電源を入れる

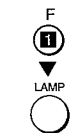


[MR BELL]を押す

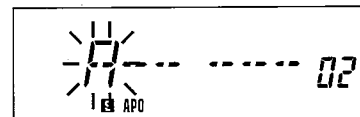


[同調]を回す

名前を付けるメモリーチャンネルを呼び出します。



[F]を1秒以上押し[LAMP]を押す
名前を入力モードになります。



[同調]で入力する文字を選択する

同調つまみを時計方向に回すと、A→Z、スペース、0→9の順番で文字が表示されます。



[F]を押す
文字を確定します。[同調]を回して次の文字を選択し、[F]で確定する作業を繰り返します。

間違えたときはVFOキーを押してから入力し直します。

操作

MR BELL



[MR BELL]を押す
名前の入力を終了します。

- メモリーチャンネルの名前を確認する

MR BELL



[MR BELL]を押す



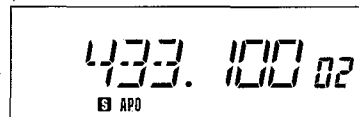
[同調]を回す
メモリーチャンネルを呼び出します。
メモリーチャンネル番号と名前が表示されます。



名前が登録されていないと、周波数が表示されます。



[F]を押し、続けて[LAMP]を押す
名前の表示が周波数の表示に切り替わります。



もう一度同じ操作をすると、名前の表示に戻ります。

注意 名前はメモリーチャンネルの20～39チャンネルに登録されます。したがって、このチャンネルにすでにデータが登録されているときは名前のデータに書き替えられてしまいます。

例：メモリーチャンネル0に名前を付けると20チャンネルのデータが名前のデータに書き替わります。

ME-1装着時は40～139チャンネルのデータは自動的に20～119チャンネルに番号が変更されます。

自動的に周波数を変えて
受信する（スキャン）

●スキャンとは

周波数を自動的に変化させて信号を探し、信号を見つけるとスキャンを一時停止してその周波数を受信します。

次に示す5種類のスキャンがあります。

VFOスキャン

バンド全域をスキャンします。

MHz スキャン

VFOスキャン動作時に、表示周波数の1MHzの範囲をスキャンします。

メモリスキャン

メモリーチャンネルをスキャンします。

コールスキャン

表示されている周波数または最後に操作したメモリーチャンネルと、コールチャンネルをスキャンします。

注意 スキャンを行うときはベル機能およびページング機能をOFFにしてください。

●スキャンの再開条件を切り替える

信号を受信してから再びスキャンを開始するための条件は、次の2つから選択することができます。

タイム・オペレート

信号を受信するとスキャンを停止します。5秒後に（信号がなくならなくても）スキャンを再開します。（お買い上げ時の設定）

キャリア・オペレート

信号を受信するとスキャンを停止します。信号がなくなって2秒たつと、スキャンを再開します。

操作

T/CT REV



いったん電源を切り、[T/CT REV]を押しながら電源を入れる

周波数表示になる前に、設定された状態がメッセージで表示されます。（52ページ参照）

タイム・オペレートとキャリア・オペレートが交互に切り替わります。

注意 CTCSSがONのときは、CTCSS信号も一致した局でのみ停止します。DTSSがONのときは、スキャンを停止しDTSSコードが一致したときのみ音声を受信します。

バンド全域をスキャンする (VFOスキャン)

バンド全域をスキャンします。

操作



[S Q L]でスケルチを合わせる

VFO M▶V



[V F O M▶V]を1秒以上押し続ける
表示周波数からUP方向にスキャンを開始します。
ディスプレイの●が点滅します。



[同調]を回す
スキャンの方向がつまみを回した方向に切り替わります。
時計方向…周波数が上がる
反時計方向…周波数が下がる

解除



[P T T]を押す
スキャンが終了します。

指定された1MHz幅をスキャンする (MHzスキャン)

VFOスキャン動作時に、表示周波数の1MHzの範囲をスキャンします。

操作

VFOスキャン中

MHz DT/PAG



[M H z D T / P A G]を押す
MHzスキャンに変わります。

もう一度押すと、VFOスキャンに戻ります。

解除



[P T T]を押す
スキャンが終了します。

自動的に周波数を変えて受信する

メモリーチャンネルを スキャンする (メモリースキャン)

メモリーチャンネルに登録されたすべての周波数を
スキャンします。

操作



[S Q L]でスケルチを合わせる

MR BELL



[MR BELL]を1秒以上押し続ける
表示チャンネルからUP方向にスキャン
を開始します。
ディスプレイの●が点滅します。



[同調]を回す

スキャンの方向がつまみを回した方向に
切り替わります。
時計方向…チャンネルが上がる
反時計方向…チャンネルが下がる

解除



[P T T]を押す
スキャンが終了します。

注意 メモリーされているチャンネルが1つのときはスキャンし
ません。また、メモリーロックアウトされているチャンネル
はスキップされます。

スキャンさせたくないメモ リーチャンネルを設定する (メモリーチャンネルロックアウト)

メモリーチャンネルをロックアウトすると、メモリー
スキャン時にそのチャンネルはスキップされます。

操作

MR BELL



[MR BELL]を押す

[同調]を回す

ロックアウトしたいメモリーチャンネルを
呼び出します。



F

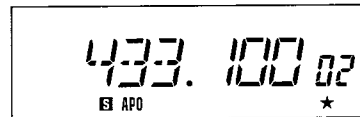


L OUT
MONI



[F]を押し、続けて[L.O.U.T MONI]
を押す

ロックアウトがONになり、
ディスプレイには★が表示されます。



もう一度同じ操作をすると、ロックアウ
トがOFFになります。

V F O周波数とコールチャンネルをスキャンする (C/Vスキャン)

V F Oモードで表示されている周波数とコールチャンネルに登録されている周波数をスキャンします。

操作



[SQL]でスケルチを合わせる

CALL LOW



[CALL]を1秒以上押し続ける
コールチャンネルと表示されていた周波数のスキャンを開始します。
ディスプレイの●が点滅します。



解除



[PTT]を押す
スキャンが終了します。

メモリーチャンネルとコールチャンネルをスキャンする (C/Mスキャン)

表示しているメモリーチャンネル周波数とコールチャンネルに登録されている周波数をスキャンします。

操作

MR BELL



[MR BELL]を押す



[同調]でメモリーチャンネルを選ぶ

CALL LOW



[CALL LOW]を1秒以上押し続ける
表示されていたメモリーチャンネル周波数とコールチャンネルのスキャンを開始します。

解除



[PTT]を押す
スキャンが終了します。

注意 スキャンするメモリーチャンネルが最後に使用したチャンネルと同じときは [MR] を1秒以上押すだけでC/Mスキャンを開始します。

自動的に周波数を変えて受信する

音声信号にDTMF信号やトーンを付加して送信します。

使用するDTMF信号やトーンを相手局とあらかじめ決めておきます。送信側と受信側のDTMF信号やトーンが一致していれば交信できますが、DTMF信号やトーンが一致していないとスケルチが開かず交信できません。

特定の相手局とだけ交信したいときに使用します。

CTCSS (トーンスケルチ)

67.0~250.3Hz間のトーンの一つを音声信号に付加して送信します。自局と相手局のトーンが一致したときにだけ受信できます。

レピーターによってトーンはカットされてしまうので、レピーターを使った交信には適しません。

トーンスケルチにはオプションのCTCSSユニットTSU-7が必要です。

DTSS

3桁のDTMF信号(ピッポッパ音)からなるDTSSコードを送信します。自局と相手局のDTSSコードが一致したときにだけ受信できます。

レピーターを使った交信にも使用できます。

ページング

3桁のDTMF信号からなるページングコードを各局で持ちます。

相手局のコードを送信すると、相手局を呼び出すことができます。受信側では、呼び出されたコードが自局のコードと一致したときにだけ受信できます。ページングでは、DTSSとは異なり受信側に送信側のコードが表示されるため、呼び出した相手局がわかります。

レピーターを使った交信にも使用できます。

CTCSS (トーンスケルチ)

あらかじめ相手局と決めておいたCTCSS周波数(トーン)を音声信号に付加して送信します。自局と相手局のCTCSS周波数が一致したときにスケルチが開き、受信できます。

レピーターによってCTCSS周波数はカットされてしまうので、レピーターを使った交信には適しません。

CTCSSにはオプションのCTCSSユニットTSU-7が必要です。

CTCSS周波数の種類 (単位Hz)		
67.0	107.2	167.9
71.9	110.9	173.8
74.4	114.8	179.9
77.0	118.8	186.2
79.7	123.0	192.8
82.5	127.3	203.5
85.4	131.8	210.7
88.5	136.5	218.1
91.5	141.3	225.7
94.8	146.2	233.6
97.4	151.4	241.8
100.0	156.7	250.3
103.5	162.2	

注意 レピーター使用のためのトーン周波数とCTCSS周波数は同時に設定されます。レピーター使用时にはご注意ください。

操作

●CTCSS周波数を選ぶ



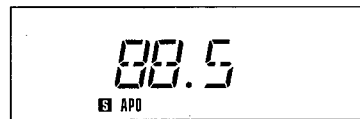
[VFO M/V]を押す



[F]を1秒以上押し、[T/CT REV]を押す



ディスプレイには現在のCTCSS周波数が表示されます。



[同調]を回す。

相手局と打ち合せたCTCSS周波数を選択します。



[T/CT REV]を押す

CTCSS周波数が設定され、周波数表示に戻ります。

注意 メモリーチャンネルやコールチャンネルでも上記の操作でCTCSS周波数が一時的に選択できますが、メモリーしてある内容は更新されません。

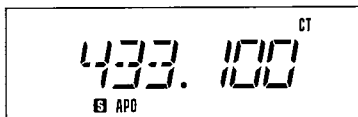
● CTCSSの送受信

T/CT REV



[T/CT REV]をCTが表示されるまで押す

CTCSSがONになり、ディスプレイにCTが表示されます。



受信する

CTCSS周波数が一致すると、信号を受信します。

送信する

[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって話す

音声信号にCTCSS周波数が付加されて送信されます。



T/CT REVキーではトーンとCTCSSのON/OFFを切り替えます。T/CT REVキーを押すたびに、モードが次のように変わります。

トーンOFF → トーンON
CTCSS OFF → CTCSS OFF

トーンOFF
CTCSS ON

● メモリーチャンネルに登録する

この状態でメモリーすると、CTCSS ONとCTCSS周波数が送受信周波数と一緒にメモリーチャンネルに登録されます。

操作

F



[F]を1秒以上押す。



[同調]でメモリーチャンネル番号(00~39)を選択する

MR BELL



[MR BELL]を押す
メモリーに登録されます。

メモリーチャンネル番号とMRキーを入力する代わりに、CALLキーを押すと、コールチャンネルに登録されます。

● CTCSSをOFFにする

T/CT REV



[T/CT REV]を押す
CTCSSがOFFになり、ディスプレイのCT表示が消えます。

解除

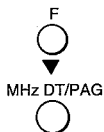
DTSS

3桁のDTMF信号（ピポッパ音）からなるDTSSコードを送信します。自局と相手局のDTSSコードが一致したときにだけスケルチが開き、受信できます。2秒以上信号がないと、スケルチは閉じます。

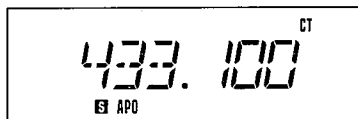
レピーターを使った交信にも使用できます。

CTCSSの場合、音声に重なって常にCTCSS周波数が送出されていますが、DTSSの場合は、送信開始時に1回DTSSコードが送出されるだけです。

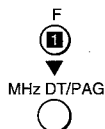
設定



[F]を押し、続けて[MHz DT/PAG]を押す
DTSSがONになり、ディスプレイにDTが表示されるまで上の操作をくり返します。



操作



DTSSがONのとき
[F]を1秒以上押し、[MHz DT/PAG]を押す
ディスプレイには現在の設定値が表示されます。

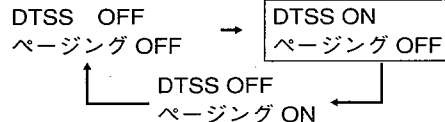


10秒以内に
[同調]でDTSSコードの1桁目を選択する



Fキー+MHz DT/PAGキーではDTSSとページングのON/OFFを切り替えます。

Fキー+MHz DT/PAGキーを押すたびに、モードが次のように変わります。



●DTSSコードを設定する

MHz DT/PAG



[MHz DT/PAG]を押す

コードを確定します。[同調]を回して次のコードを選択し、[MHz DT/PAG]で確定する作業を3桁分繰り返し、相手局と打ち合せたDTSSコード(000~999)を設定します。3桁分確定されると、周波数表示に戻ります。

注意 3桁目まで入力しないと新しいコードに変更されません。

●DTSSコードを使って送受信する

操作

VFO M▶V



[VFO M▶V]を押す

送信周波数を合わせる

受信する

DTSSコードが一致すると、信号を受信します。

送信する

[PTT]を押す。時間をおいてから、マイクロホンに向かって話す
PTTスイッチの押し初め0.5秒間にDTSSコードが送出されます。



注意

- ・DTSSコード送出中は音声がかットされます。
- ・待ち受け時のトランシーバーがバッテリーセーバー状態の場合タイミングによってはDTSSコードを受信できないことがあります。確実にDTSSコードを受信させるには、いったんPTTスイッチを離し、もう一度送信してください。
- ・送られてくるDTSSコードを確実に受信するためには、バッテリーセーバーをOFFにすることをお勧めします。(P23参照)
- ・レピーターのIDとDTSSコードが重なる場合には動作しないことがあります。レピーターがIDを送出後、もう一度PTTスイッチを押して、DTSSコードを送出してください。

●メモリーチャンネルに登録する

この状態でメモリーすると、DTSS ONとDTSSコードが送受信周波数と一緒にメモリーチャンネルに登録されます。

操作



[F]を1秒以上押す。



[同調]でメモリーチャンネル番号(00~39)を選択する

MR BELL



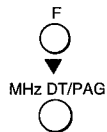
[MR BELL]を押す
メモリーに登録されます。

メモリーチャンネル番号とMRキーを入力する代わりに、CALLキーを押すと、コールチャンネルに登録されます。

メモリーチャンネルやコールチャンネルにデータが登録されているとき、「DTSSコードを設定する」と同じ手順で一時的にDTSSコードを変更できます。ただしあらかじめメモリーしたデータは更新されません。

●DTSSをOFFにする

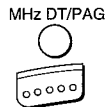
解除



[F]を押し、続けて[MHz DT/PAG]を押す

DTSSがOFFになり、ディスプレイのDT表示が消えるまで上の操作をくり返します。

操作



いったん電源を切り[MHz DT/PAG]を押しながら電源を入れる
周波数表示になる前に設定した状態がメッセージで表示されます。(52ページ参照)
450msと250msが交互に切り替わります。

●ディレイ時間を切り替える（レピーター運用時）

DTSS信号はPTTスイッチを押したときに一度だけ送信されます。しかし、レピーター運用時は、レピーターの応答時間によって、送信したDTSSコードが途切れてしまうことがあります。

これを防止するため、レピーターが送信を開始した後でDTSSコードが送信されるように、ディレイ時間を切り替えます。

通常の送信時のディレイ時間 250ms
(変更できません)

SHIFT、スプリットチャンネル時のディレイ時間
450ms（工場出荷値）と
250msを選択

ページング

3桁のDTMF信号からなるページングコードを各局で持ちます。

相手局のコードを送信すると、相手局を呼び出すことができます。受信側では、呼び出されたコードが自局のコードと一致したときにだけ受信できます。

DTSSとは異なり、受信側に送信側のコードが表示されるため、呼び出した相手局がわかります。グループコードを設定すると、複数局を同時に呼び出すこともできます。

レピーターを使った交信にも使用できます。

●ページングコードを設定する

ページングで交信する場合には、グループ共通のグループコード(000~999)と各自の個別コード(000~999)を決めておきます。

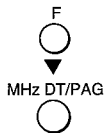
TH-K28/TH-K48にはページングコードを登録しておく専用のメモリー(ページングコードメモリー)があります。

交信する前に、自局のコードをAチャンネルに、相手局のコードまたはグループコードを1~9チャンネルに設定しておきます。

ページングコードメモリーの構成

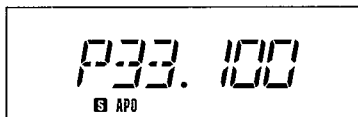
チャンネル	用途
Ach	自局コードをメモリーする
0ch	受信時に相手局コードがメモリーされる。送信時の相手局コードも一時的に設定できる
1~9ch	グループコードや相手局コードをメモリーする

操作



[F]を押し、続けて[MHz DT/PAG]を押す

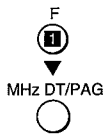
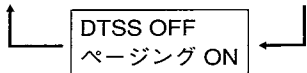
ディスプレイの周波数表示部の100MHz桁がPに変わるまでくり返します。(VFOモードからは2回)



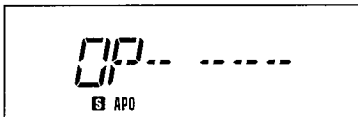
Fキー+MHz DT/PAGキーではDTSSとページングのON/OFFを切り替えます。

Fキー+MHz DT/PAGキーを押すたびに、モードが次のように変わります。

DTSS OFF DTSS ON
 ページング OFF ページング OFF



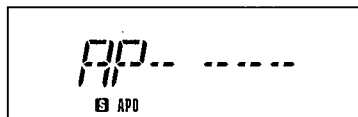
[F]を1秒以上押し、[MHz DT/PAG]を押す
 ページングコード設定モードになります。



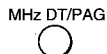
① 自局のコードを設定する



[同調] を回し、チャンネルAを選択する



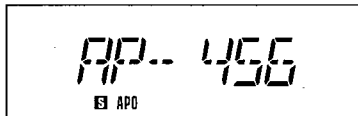
[MHz DT/PAG]を押す



[同調]でコードの1桁目を選択する



[MHz DT/PAG]を押す
 コードを確定します。[同調]を回して次のコードを選択し、[MHz DT/PAG]で確定する作業を3桁分繰り返します。



② 他局のコードやグループコードを設定する

[同調]を回し、チャンネル1～9を選択する



[MHz DT/PAG]と[同調]でコードを1桁ずつ選択する
 3桁(000～999)のコードを選択します。




複数のコードを設定するときは、以上の操作を繰り返します。

コードの設定が終わり、[同調]で相手局のコードを選び、[PTT]を押すとページングの運用ができます。

初めは、操作に慣れるためにもいったんVFOモードに戻してから以下の操作を試みることをおすすめします。VFOモードに戻すには

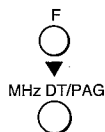
VFO M▶V  [VFO M▶V] を押す
ページングモードに戻ります。

 [F] を押し、続けて[MHz DT/PAG]
を押すとVFOモードに戻ります。

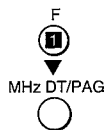
●ページングで送信する（呼び出す）

特定の相手局やグループ全員を呼び出します。

送受信周波数を合わせる



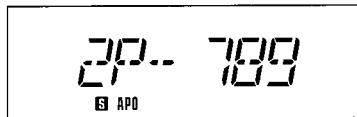
[F] を押し、続けて[MHz DT/PAG]
を押す
ページングモードになります。



[F] を1秒以上押し、[MHz DT/PAG]
を押す



[同調] を回し、相手局のコード（グ
ループコード）を設定したチャンネルを
選択する
チャンネルとコードが表示されます。



操作



[P T T] を押す
自動的にページングモードに戻りコードを送信します。



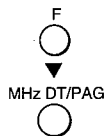
[P T T] を押しながら、マイクロホンに向かって話す

注意 レピーターのIDとページングコードが重なる場合には動作しないことがあります。レピーターのIDを送出後もう一度PTTスイッチを押して、ページングコードを送出してください。

・待ち受け時のトランシーバーがバッテリーセーバー状態の場合、タイミングによってはページングコードを受信できないことがあります。確実にページングコードを受信させるには、コードを送信した後、いったんPTTスイッチを離し、もう一度送信してください。

操作

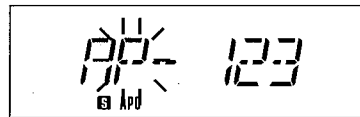
●ページングで受信する（待ち受ける）
送受信周波数を合わせる



[F] を押し、続けて [M H z D T / P A G] を押す

ページングモードになります。

① 特定の相手から呼び出される
自局コードで呼び出されると、0チャンネルと相手局のコードが表示されます。

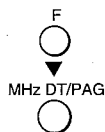


スケルチが開き、相手の声が聞こえます。0チャンネルに相手局のコードが自動的に登録されます。



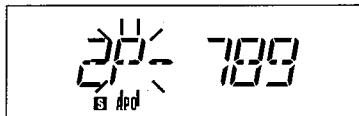
[P T T] を押す
ページングモードに戻り応答できます。

交信が成立したら
[F] を押し、続けて [M H z D T / P A G] を押す
ページング機能をOFFにして、交信を続けます。



操作

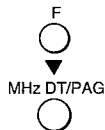
- ② グループコードで呼び出される
グループコードで呼び出されると、グループコードが登録されているチャンネル番号とグループコードが表示されます。



スケルチが開き、相手の声が聞こえます。



[PTT]を押す
ページングモードに戻り応答できます。



[F]押し、続けて[MHz DT/PAG]を押す
ページング機能をOFFにして、交信を続けます。

注意 送られてくるページングコードを確実に受信するためには、バッテリーセーバーをOFFにすることをお勧めします。

- 個別コードの受信を禁止する（コードのロックアウト）

ページングコードメモリーの1～9チャンネルに個別コードを登録しておく、他局どうしの交信でもコードが一致すれば受信してしまいます。これを避けるため、チャンネルごとに受信禁止を設定できます。



[F]を押し、続けて[MHz DT/PAG]を押す
ページングモードになるまでくり返します。（VFOモードからは2回）



[F]を1秒以上押し、[MHz DT/PAG]を押す
ページングコード設定モードになります。



[同調]を回し、チャンネルを選択する



[F]を押し、続けて[L. OUT MONI]を押す
★マークが表示されます。
このチャンネルに登録されたコードでは受信できなくなります。
もう一度同じ操作をすると、★が消えロックアウトが解除されます。

もっと便利に使う

最後に、TH-K28/TH-K48 ならではの便利な機能を2つ紹介します。

文字を使って交信する

(メッセージ伝送)

TH-K28/TH-K48では、音声信号の他に英数字の文字分のメッセージを送受信することができます。

送信するメッセージは、いったんメッセージ用のメモリー（10チャンネル分）に登録してから送ります。

メッセージ用のメモリーにはあらかじめ4つのメッセージが登録されています。

メッセージ	意味
CALL ME	(呼んでください)
FONE ME	(電話してください)
ROGER	(了解しました)
AT HOME	(家にいます)

このメッセージは次のメッセージを登録する手順と同じ方法で変更できます。

受信したメッセージはディスプレイに表示されません。

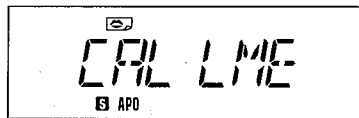
メッセージを送受信するときには必ず、DTSSまたはページングを併用してください。

操作

●メッセージをメッセージメモリーに登録する



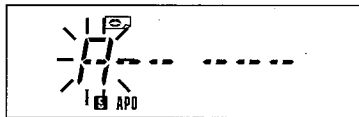
[F] を1秒以上押し、[MESSAGE] を押す



[同調] を回す
メッセージを書き込むチャンネルを選択します。



[F] を押す
メッセージ入力モードになります。



[同調] で入力する
文字を選択する

同調つまみを時計方向に回すと、A→Z、スペース、0→9の順番で文字が表示されます。

特定の相手局と交信する



[F] を押す

文字を確定します。[同調] を回して次の文字を選択し、[F] で確定する作業を6文字分繰り返します。

間違えたときはVFOキーを押してから入力し直します。

MR BELL



10秒以内に

[MR BELL] を押す
メッセージの入力を終了します。

6文字以内でも [MR BELL] を押すとそのメッセージが登録され、周波数表示に戻ります。他のメッセージを登録するときは始めからくり返してください。

●メッセージを確認する

操作



[F] を1秒以上押し、[MESSAGE] を押す



[同調] を回す

登録されているメッセージが順番に表示されます。

登録されていないときは、次のように表示されます。



[MESSAGE] を押すがそのまま10秒間待つ
確認を終了します。

操作

●メッセージを送信する

送受信周波数を合わせる

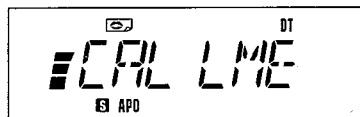
ページングまたはDTSSを設定する
(42ページまたは39ページ参照)



[P T T] を押しながら [MESSAGE] を押す



ディスプレイにメッセージが表示されま
す。



[同調] で送信メッセージを選択する



[MESSAGE] を押す

登録されているメッセージが送出されま
す。

別のチャンネルのメッセージを送出する
場合は、[P T T] スイッチを押しなが
ら [MESSAGE] を押すところから繰り
返します。

- メッセージを受信する
送受信周波数を合わせる

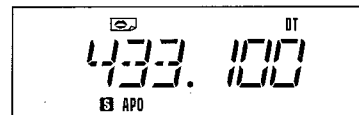
ページングまたは D T S S を設定する



[F] を押し、続けて [MESSAGE] を
押す



メッセージ受信が ON になります。

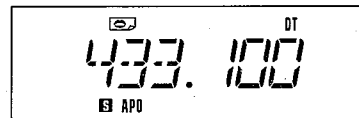


メッセージを受信すると
メッセージマークが点滅し、メッセージ
が表示されます。メッセージは受信メッ
セージバッファに蓄えられます。

■ D T S S O N のとき

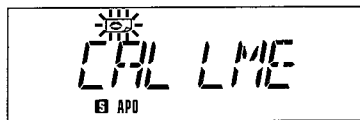


↓ [MESSAGE] を押す



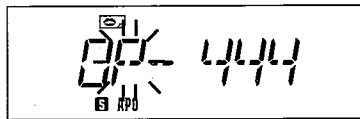
もっと便利に使う

■ ページング ON のとき

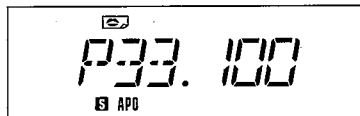


この状態から

[MESSAGE] を押すと、ページングコードが表示されどの局からのメッセージかがわかります。



もう一度 [MESSAGE] を押すと、ページングモードになります。



● 受信したメッセージを呼び出す

操作



本機は10チャンネルの受信メッセージメモリがあります。

[MESSAGE] を押す
最新のメッセージが表示されます。



[同調] を回す
最新のメッセージから順に表示されます。

注意 10以上のメッセージを受信すると、最も古いメッセージから順次新しいメッセージに更新されます。

● 受信したメッセージを消去する

操作



いったん電源を切り、[MESSAGE] を
押しながら電源を入れる。

留守中の着信を知らせる

(ベル)

信号受信時、音声信号の代わりにベルを鳴らします。CTCSS、DTSSやページングと併用すると、特定局からの呼び出しを、ベル音で知らせてくれます。受信してからの経過時間がディスプレイに表示されるため、留守中でも着信のあったことがわかります。

操作



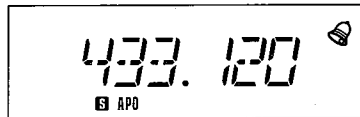
[SQL] でスケルチを合わせる

送受信周波数を合わせる

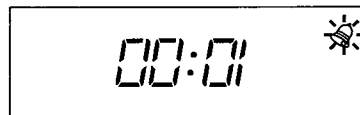


[F] を押し、続けて [MR BELL] を押す

ベルがONになります。ディスプレイにベルのマークが表示されます。



信号を受信しスケルチが開くと、5秒間ベルが鳴り、ベルのマークが点滅し、経過時間が表示されます。
(音声は聞こえません)



さらに、信号を受信すると、経過時間は更新されます。

解除



[F] を押し、続けて [MR BELL] を押す

もう一度押すとベルの表示が消え、ベルがOFFになります。

注意

- ・ CTCSS ONとベルONを同時に設定した場合、CTCSS周波数が一致する信号が1秒以上続いたときにベルが動作します。
- ・ DTSSまたはページングONとベルONを同時に設定した場合、コードが一致する信号を受信したときにベルが動作します。
- ・ ベルが動作している間も、モニタースイッチを押すと、音声聞くことができます。
- ・ ベルは受信した電波の質(音声の低域歪やイグネッションノイズの混入など)によって誤動作することがあります。オプションのTSU-7を使用して、CTCSS周波数を141.3Hz以下に設定すると、これらの影響を受けにくくなります。
- ・ ベルがONのとき、オートパワーオフ機能は動作しません。

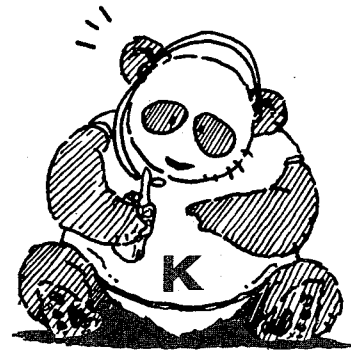
もっと便利に使う

設定された機能をメッセージで 確認する

いろいろな機能を切り替えたときに、設定した機能を確認するためのメッセージが2秒間表示されます。

メッセージ	機能
CAR	キャリアオペレート
TIME	タイムオペレート
BPON	ビープ音ON
BPOFF	ビープ音OFF
450MS	コードスケルチディレイ時間450ms
250MS	コードスケルチディレイ時間250ms
MSGON	メモリーメッセージON
MSGOFF	メモリーメッセージOFF
MSGCLR	メッセージ伝送用受信メモリークリア

保守編



故障とお考えになる前に

症状	原因・対処
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池切れです。新しい電池と交換するか充電をしてください (P 4 参照)。 ● 電源ケーブルが不良か、うまく接続されていません。調査してください。 ● P G-2 W または P G-3 F または P G-3 H のヒューズが切れています。ヒューズが切れた原因に関する修理をした後、ヒューズを交換してください。
送信中にディスプレイ表示が点滅したり、消えることがある	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池切れです。新しい電池と交換するか充電をしてください (P 4 参照)。
受信できない。またはVOLつまみを回してもスピーカーから音が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> ● スケルチが閉じています。SQLつまみを調整してください (P 8 参照)。 ● T S U-7 を取り付けている場合、CTCSS が動作しています。T/CT REV キーを押して、CTCSS を OFF にしてください (P 3 8 参照)。 ● DTSS が動作しています。F キーと M H z DT/PAG キーを押して、DTSS を OFF にしてください (P 4 1 参照)。 ● ページングが動作しています。F キーと M H z DT/PAG キーを押して、ページングを OFF にしてください (P 4 4 参照)。
同調つまみを回しても周波数変化しない	<ul style="list-style-type: none"> ● キーがロックされています。LOCK スイッチを押し下げて、キーロックを解除してください (P 2 1 参照)。 ● ベル機能が ON になっています。F キーと M R B E L L キーを押してください (P 5 1 参照)。 ● コールチャンネルモードになっています。CALL キーを押してください。
[MR] を押してもメモリーチャンネルが呼び出せない	<ul style="list-style-type: none"> ● メモリーチャンネルにデータが登録されていません。データを登録してください。(P 2 7 参照)

症状	原因・対処
電源を入れたとき、周波数が145.000 (TH-K28), 433.000 (TH-K48) になる。	● バックアップ用電池がなくなってしまい、データが消失しました。電池ケースや外部電源から1時間で充電されます。完全に充電するには約10時間かかります。
リバースが解除できない	● シフトがONになっています。シフトをOFFにしたあとで、リバースを解除してください (P 25 参照)。
レピーターを使用できない	● トーン周波数などが正しくありません。レピーターを使用する条件をもう一度確認してください (P 24 参照)。

•アフターサービスについて

以上の処置をしてもうまく動かない場合には、お買上げの販売店または当社サービスセンター、営業所にご相談ください。

保証期間はお買上げの日より1年間です。正常な状態でのご使用にもかかわらず万一故障が生じた場合には、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買上げの販売店または当社サービスセンター、営業所にご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。このため、保証書は必ず所定事項をご記入の上、大切に保管してください。

保証期間経過後の修理についても同様にご連絡ください。修理が可能なものにつきましては、お客様のご要望により有料で修理いたします。

お買い上げ時の値に戻す (リセット)

各種の設定やメモリーの内容を工場出荷値に戻します。

●メモリーリセット

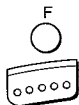
すべてのメモリーの内容をリセットします。

いったん電源を切り、[F] を押しながら電源を入れる

ディスプレイ表示が全点灯になったら、両方のキーを離します。

メモリーがリセットされます。

操作



アクセサリー

本機で使用できるアクセサリーには次のようなものがあります。

小型スピーカー
マイクロホン

○SMC-32



リモートコントロール
スピーカーマイクロホン

SMC-33



スピーカー
マイクロホン

○SMC-34



イヤホン付クリップ
マイクロホン
EMC-1



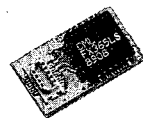
VOX. PTT付き
ヘッドセット
HMC-2



プチホン型イヤホン
○ HS-9



CTCSSユニット
TSU-7



単3電池ケース
○ BT-8



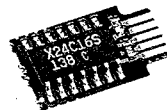
ヘッドセット
○ HMC-4



VOX. PTT付き
ヘッドセット
○ HMC-3



拡張メモリーユニット
(200チャンネル)
ME-1



安定化電源用にはPG-2W、車載用にはPG-3H(またはPG-3F)をお使い下さい。

PB-13はDC INから自動的に充電されます。PB-13の過充電や、車のバッテリーの消耗を防ぐため、PB-13をつけたままDC IN端子から15時間以上充電することはおやめ下さい。

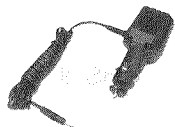
ニッカドバッテリー
7.2V 700mA
○PB-13



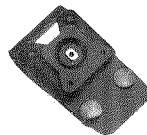
ウォールチャージャー
BC-14



ノイズフィルター付き
シガレットライターコード
○PG-3F → PG-3J



アダプター付
シーベル金具
BH-6



防水ソフトケース
WR-2



ニッカドバッテリー
7.2V 1100mAh
PB-18



急速バッテリー
チャージャー
充電時間の目安：1時間
BC-15(PB-13用)



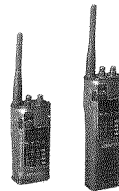
ノイズフィルター付き
シガレットライターコード
PG-3H



モバイルブラケット
MB-6



ソフトケース
SC-33/34



ニッカドバッテリー
12V 700mAh
PB-17



急速バッテリー
チャージャー
充電時間の目安：1時間
BC-15G(PB-13/17/18)



プラグコード
○PG-2W

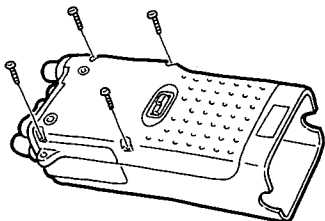


ハンドストラップ
HB-2

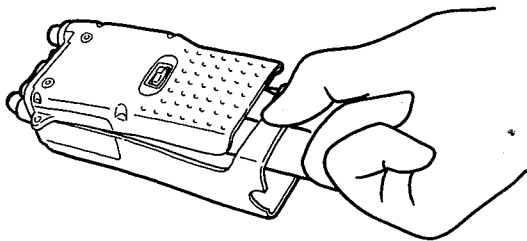


● CTCSSユニット (TSU-7) の取り付け

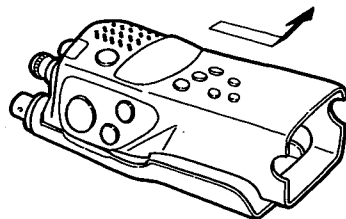
- ① 本体背面のリリースボタンを押し、電池ケースを引き抜きます。
- ② 本体背面の4本のねじをはずします。



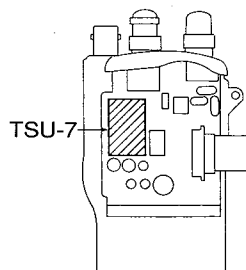
- ③ 指を電池ケースの中に入れて背面ケースの爪をはずします。



- ④ 本体を表向きにします。
- ⑤ 内部の配線に注意しながら前面パネルをPTTスイッチの側から開きます。



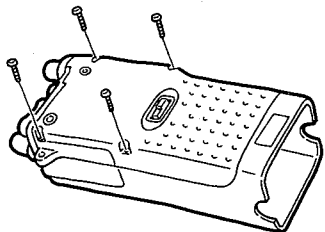
- ⑥ TSU-7付属のクッションをユニットの裏側（コネクタの付いていない側）に貼り付けます。
- ⑦ TSU-7をコネクタに取り付けます。



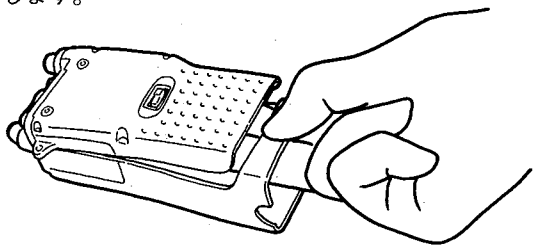
- ⑧ コードをはさまないように注意しながら、はずしたケースを元に戻します。
- ⑨ 4本のねじを止めます。
- ⑩ 電池ケースを挿入します。

●メモリー拡張ユニット (ME-1) の取り付け

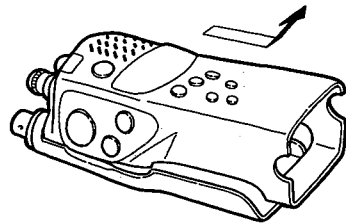
- ① 本体背面のリリースボタンを押し、電池ケースを引き抜きます。
- ② 本体背面の4本のねじをはずします。



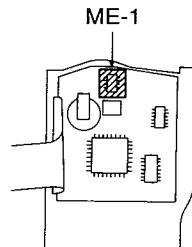
- ③ 指を電池ケースの中に入れて背面ケースの爪をはずします。



- ④ 本体を表向きにします。
- ⑤ 内部の配線に注意しながら前面パネルをPTTスイッチの側から開きます。



- ⑥ 図のようにME-1をコネクターに取り付けます。



ME-1は部品面を上にしてコネクターに取り付けます。

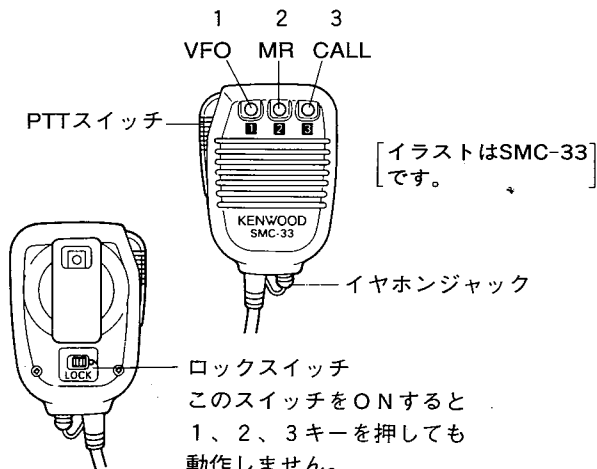
- ⑦ コードをはさまないように注意しながら、はずしたケースを元に戻します。
- ⑧ 4本のねじを止めます。
- ⑨ 電池ケースを挿入します

● リモートコントロール・スピーカーマイクロホン (SMC-33/34、HMC-4) の使用

SMC-33/34、HMC-4はスピーカーマイクロホンとなるだけでなく、1、2、3キーを使って本体をコントロールすることができます。

1、2、3キーには、本体の特定のキーの機能を割り当てます。すると、1、2、3キーは、本体のキーとまったく同様に働きます。(プログラマブルファンクション)

工場出荷時、1、2、3キーは [VFO] [MR] [CALL] キーとして設定されています。



1、2、3キーを使わないときは、ONしておくことをおすすめします。

● プログラマブルファンクションの設定

- ① 本体の電源をOFFにします。
- ② プラグを本体のMIC端子に接続します。
- ③ 1 (または2、3) キーのどれかを押しながら、POWERスイッチをONにします。
プログラマブルファンクション表示になります。



- ④ 本体のキー操作をします。操作したキーの機能が1 (または2、3) キーに設定されます。

例: MHz DT/PAGキーを押すと、1キーはMHz DT/PAGキーになる

Fキーを押しCALL LOWキーを押すと、1キーはLOWキーになる

- 注意
- ・本体に接続する時は、必ず電源スイッチをOFFしてから接続してください。
 - ・本体のキーがロックされても、1、2、3のスイッチはロックされません。
 - ・送信中に1、2、3キーは動作しません。

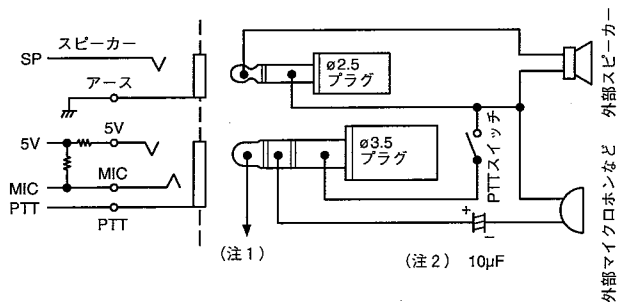
●設定可能なキー一覧

下記のキーを押す	Fキーを押し、続けて 左側のキーを押す
同調つまみ 右方向 UP 左方向 DOWN	—
PTT (*)	SHIFT
LAMP	メモリーチャンネルの名前表示 ⇔周波数表示切り替え
MONI	メモリーチャンネルロックアウト
MESSAGE (表示)	メッセージ受信ON/OFF
VFO	メモリーシフト
MR	ベル
CALL	送信出力
MHz	DTSSまたはページング
T/CT	リバース

(*) 単独では設定できません。Fキーと併用したときのみ機能します。

●外部装置との接続

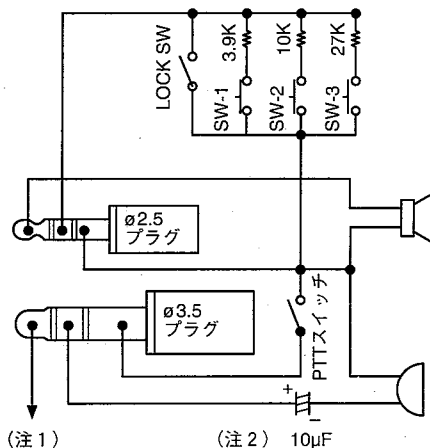
MIC端子やSP端子に、外部スピーカー、外部マイクロホン、RTTY、FAXなどの外部装置を接続する場合には、下図を参考にしてください。



- (注1) 内部の5Vラインから220Ωの抵抗を通して電圧が出ています。(3.5mA流したときに約4Vの電圧になります。)
- (注2) 次の場合は10µFのコンデンサは不要です。直接つないでください。
 - ・外部接続側に直流カット用コンデンサがついている場合。
 - ・外部マイクロホンに2端子のコンデンサマイクロホンを使用する場合。

●リモコン機器との接続

リモコン機器を使用するには以下のように接続してください。



定格

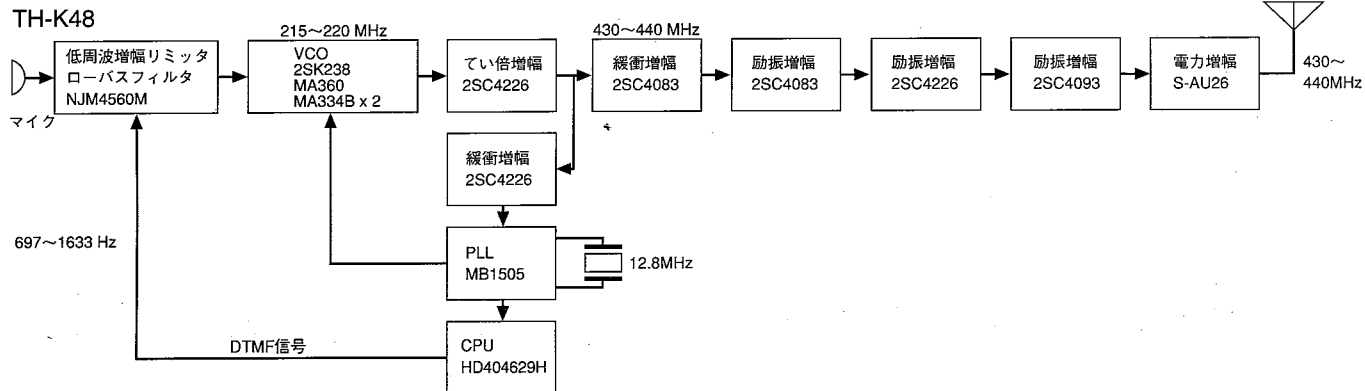
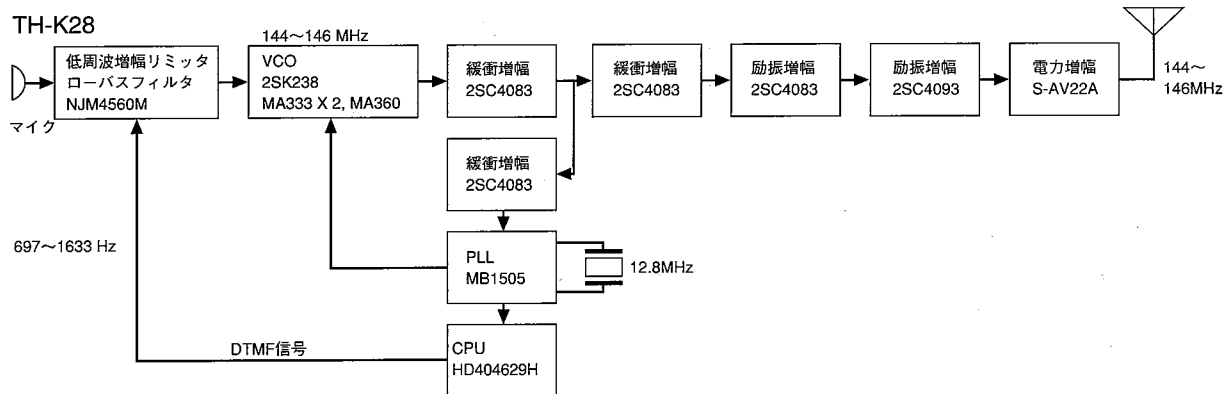
		TH-K28	TH-K48
一般仕様			
周波数範囲(MKHz)		144~146	430~440
電波形式		F2, F3(FM)	
アンテナビーターンス		50Ω	
使用温度範囲		-20°C~+60°C	
電源電圧 (定格電圧)	外部電源(V)	7.2~16(13.8)	
	電池端子(V)	5.8~16(7.2)	
消費電流	送信時 H (13.8V) (外部電源)	約1.4A	約1.6A
	送信時 H (7.2V) (電池端子)	約0.95A	約1.1A
	送信時 L (7.2V)	約0.5A	約0.6A
	送信時 EL (7.2V)	約90mA	約95mA
	受信待ち受け時	約55mA	約57mA
	バッテリーセバ-時平均	約15mA	約15mA
接地方式		マイク接地	
寸法(WxHxD)		49.5x115.8x37.8mm	
寸法(突起物含む)		61.2x131.5x37.8mm	
重量(*)		330g	
マイクロビーターンス		2kΩ	
送信部			
送信出力	H 13.8V(DC IN端子)	5W	
	H 7.2V(電池端子)	約2.5W	約2W
	L	約0.5W	
	EL	約20mW	

変調方式	リアクティ変調	
最大周波数偏移	±5kHz	
スプリング発射強度	-60dB以下	
受信部		
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
第1中間周波数	45.05MHz	
第2中間周波数	455kHz	
受信感度 (12dB SINAD)	-16dB μ (0.16 μV) 以下	-15dB μ (0.18 μV) 以下
スカル感度	-20dB μ(0.1 μV)以下	
選択度 -6dB	12kHz以上	
選択度 -40dB	28kHz以下	
低周波出力 (10%ひずみ時)	200mW以上 (8Ω)負荷	

* アンテナ、ハンドストラップ、ベルトフック、電池(単3 X 6本)を含む

注意 ・ J A I A (日本アマチュア無線機器工業会) で定めた測定法によります。
 ・ 定格は技術開発に伴い変更することがあります。

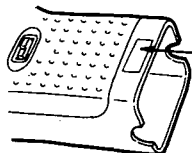
●送信機系統図



定格

開局申請書の書きかた

本機は技適証明送受信機ですので、『アマチュア無線局の無線設備の技術基準適合証明書発行願』および『工事設計』に技術基準適合証明番号を記載することにより、送信機系統図と工事設計の発射可能な電波の型式周波数の範囲、変調の方式、定格出力、終段管の記入を省略することができます。



技術基準適合証明シール
番号は無線機毎に異なります。

TH-K28

22 工事設計	第1送信機
変更の種別	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号	KV004□□□□□

TH-K48

22 工事設計	第1送信機
変更の種別	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号	KU005□□□□□

送信空中線の型式	単一型(※)
その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している

(※)外部アンテナを使用するときは、そのアンテナの型式を記入してください。

保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計」に下記の項目を記入してください。

		TH-K28	TH-K48
発射可能な電波の型式 周波数の範囲	F2 } F3 }	144MHz帯	F2 } F3 } 430MHz帯
変調の方式	リアクタンス変調		
定格出力	5W		
終 段 管	名 称・個 数	S-AV22A ×1	S-AU26 ×1
	電 圧	12.5V	12.4V

申請書類及び申請に関するお問合せは
財団法人 日本アマチュア無線振興協会
〒170 東京都豊島区巢鴨1丁目24番3号
小島ビル
電話 代表 (03) 5395-3200
監理部業務課 (03) 5395-3206~9

運用にあたっての注意

●電波を発射する前に

日本アマチュア無線機器工業会（J A I A）

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり運用されています。これらの無線局の至近距離で電波を発射するとアマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することがあり、移動運用の際は十分ご注意ください。特に次の場所での運用は原則として行わず必要な場合は管理者の承認を得るようにしましょう。

民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、
業務用無線局及び中継局周辺等。

参考 無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用（発射の制限等）

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。以下略

●商品に関するお問い合わせは
お客様相談室をご利用ください。
電話(03)3477-5335

●アフターサービスのお問い合わせは
お買い上げの販売店、または、最寄りのケンウッド・サービスセンター
にご相談ください。
(別紙“全国サービス網”をご参照ください。)

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

本社：東京都渋谷区道玄坂1-14-6 〒150